

文京区アカデミー推進計画素案（案）

文京区

令和3年9月17日現在

表紙裏面

はじめに

目 次

第1章 計画の趣旨と考え方	1
1. 策定の背景と経緯	2
2. 計画の目的	3
3. 計画の位置付け	3
4. 計画の期間	3
5. 計画の構成	4
6. 基本理念	5
7. 計画の推進にあたって重視する3つの視点	6
8. 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査結果の概要	8
9. 計画の体系	12
10. 5分野の基本方針と施策	14
第2章 5つの分野の施策	17
1. 学習活動	18
2. スポーツ	30
3. 文化芸術	44
4. 観光	56
5. 国内・国際交流	67
第3章 計画の推進体制と評価の考え方	79
1. 計画の推進体制	80
2. 評価の考え方とPDCAサイクル	81
第4章 分野別アカデミー推進事業一覧	83
1. 学習活動	84
2. スポーツ	84
3. 文化芸術	84
4. 観光	84
5. 国内・国際交流	84
資料編	85
1. 文京区アカデミー推進計画 検討経過	86
2. 文京区アカデミー推進協議会名簿	87

目次裏面

※章扉を奇数ページから始めるための調整ページ

第 1 章 計画の趣旨と考え方

1. 策定の背景と経緯

「文京区アカデミー推進計画」の前身は、平成4年に策定された「文京区生涯学習基本構想」です。そこでは、本計画の基本理念においても継承している「文京区全域を生涯学習のキャンパスに」という考え方が示されています。

本区では、平成17年に策定した「文京アカデミー構想」において、生涯学習にとどまらず、スポーツや文化芸術、さらには観光や国際交流の分野との連携も視野に入れ、「区内まるごとキャンパス」化を目指すこととしました。施策を総合的に展開するため、平成18年に生涯学習・スポーツ・文化芸術を教育委員会から区長部局に移管し、平成21年に観光・国際交流も加えた5つの分野の施策を管轄するアカデミー推進部を組織しました。

その後、平成22年の「文京区基本構想」の策定を機に、アカデミー推進部が所管する新たな計画として「文京区アカデミー推進計画（平成23年度～平成27年度）」を策定し、さらに「文京区アカデミー推進計画（平成28年度～令和3年度）」（以下「前計画」という。）に基づき、これまで多様な事業を実施してきました。

前計画の計画期間終了に伴い、昨今の社会情勢の変化や国や都の政策動向、令和元年度に実施した実態調査結果等を踏まえ、令和4年度を初年度とする「文京区アカデミー推進計画（令和4年度～令和8年度）」（以下「本計画」という。）を策定しました。なお、本計画の策定は令和2年度に実施予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、前計画の計画期間を令和2年度までから令和3年度までに延長し、令和3年度に見直しを行いました。

「文京区アカデミー推進計画」の策定経緯

時期	経緯
平成4年	「文京区生涯学習推進基本構想」策定
平成6年	「文京区生涯学習推進計画」策定
平成12年	「文京区生涯学習推進計画」第一次改定
平成13年	「文京区基本構想」策定（「文の京」の明日を創る）
平成17年	「文京区生涯学習推進計画」第二次改定 「文京アカデミー構想」策定
平成18年	生涯学習の所管を区長部局に移管 文京区アカデミー推進協議会設置
平成21年	アカデミー推進部発足
平成22年	「文京区基本構想」策定
平成23年	「文京区アカデミー推進計画（平成23年度～平成27年度）」策定
平成28年	「文京区アカデミー推進計画（平成28年度～令和2年度）」策定 ※新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により令和3年度まで期間を延長
令和3年	「文京区アカデミー推進計画（令和4年度～令和8年度）」策定

2. 計画の目的

文京区アカデミー推進計画の目的は、区民をはじめ、本区に仕事や観光で一時的に訪れる人や、本区にゆかりや関係のある人等の多様な人々が、様々な環境の中で、本区の有する豊かな資源に触れ、学び、交流することで、人と人のつながりや心の豊かさを獲得し、うるおいのある暮らしを送ることができるようにするものです。

本計画は、「学習活動」「スポーツ」「文化芸術」「観光」「国内・国際交流」の各分野において充実した時間を提供するとともに、5分野それぞれが持つ特徴を活かし、分野間で相互に連携することで、個々の分野にとどまらない関心の広がりや多様なニーズを受け止め、総合的に分野間連携による事業の展開を図ります。

3. 計画の位置付け

本計画は、令和2年度に策定された「文の京」総合戦略において掲げられている将来都市像「歴史の文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」」の実現に向けて、学習活動、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の分野の側面から施策を体系的に展開するための事業計画です。

なお、スポーツ分野に関しては、スポーツ基本法第10条に基づく「地方スポーツ推進計画」として、文化芸術分野に関しては、文化芸術基本法第7条の2に基づく「地方文化芸術推進基本計画」として位置づけます。

観光分野に関しては、「文京区観光ビジョン（平成21年策定）」を継承しています。

4. 計画の期間

計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

5. 計画の構成

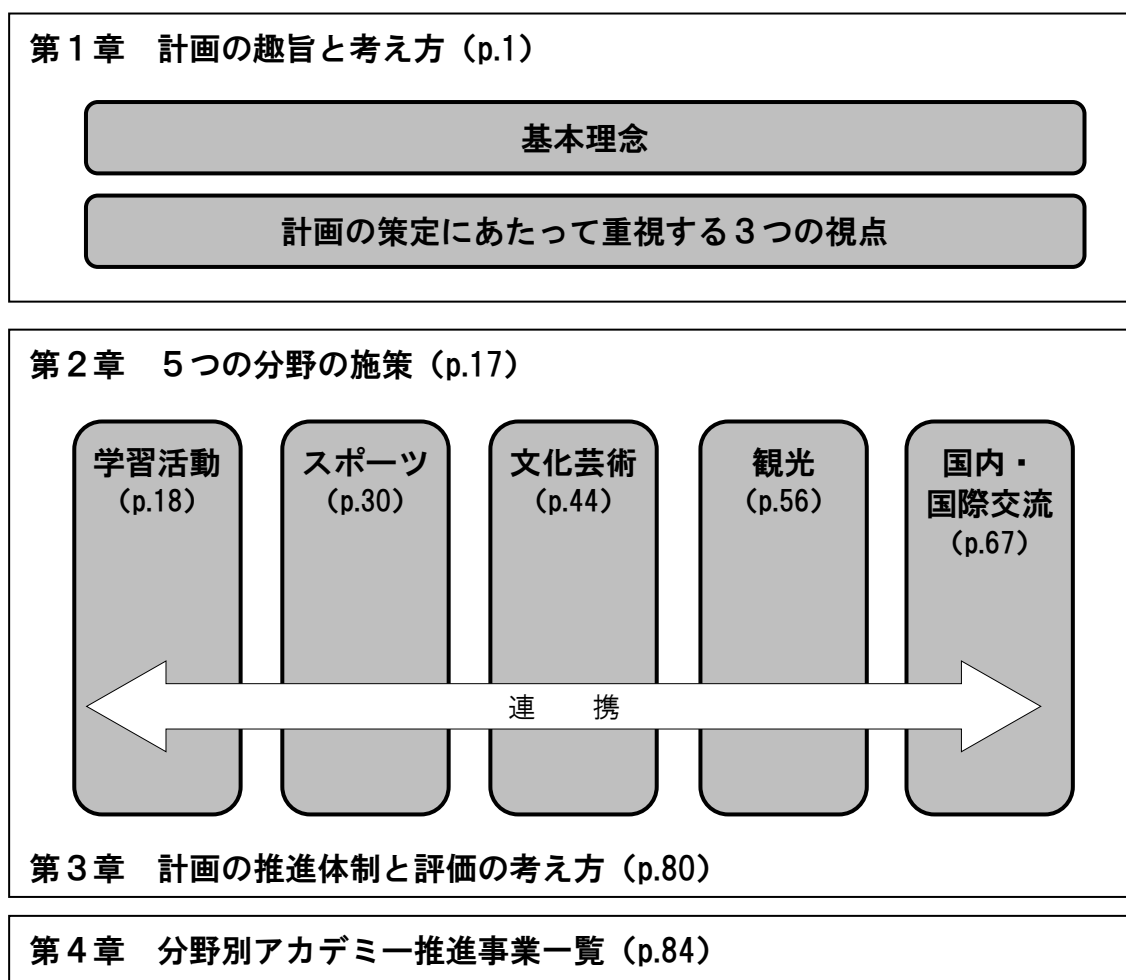
本計画は、第1章から第4章までと資料編で構成されています。第1章では、計画全体で目指す「基本理念」と「計画の推進にあたって重視する3つの視点」を示します。

第2章では、これら2点を踏まえ、学習活動、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の5分野において、それぞれ「基本方針」と「指標」を定め、5年間で推進する「施策」と「取組」を示します。

第3章では、本計画で体系的に整理した施策を推進する体制と、毎年度の事業評価及び計画の進捗・達成状況の把握に関する考え方を示します。

第4章では、令和3年度における5分野全体の事業一覧を示します。

本計画の構成



6. 基本理念

本区は、「アカデミー推進計画」の名称の由来である数多くの教育施設・教育機関のある文教の地として知られています。また、森鷗外や夏目漱石など近代文学を築いた多くの文人ゆかりの地であり、小石川後樂園、六義園や歴史ある文化施設などの観光資源が集積しています。

これまで、本区は、区内に有する多彩で豊かな文化・歴史・学びに関する資源を保存・活用して、だれもが学び、交流することを目指し、「文の京」としての価値の継承と新たな価値を創造する様々な取組を実施してきました。

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大、ICT（情報通信技術）の技術革新の進展、「持続可能な開発目標 SDGs」の採択、ダイバーシティの推進、人生 100 年時代の到来など、目まぐるしく社会情勢が変化しています。特に、令和 2 年以降、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人々は新たな生活様式に応じた日常生活を余儀なくされており、人と人とのつながりや心の豊かさの重要性がこれまで以上に強く認識されています。このように、多様なニーズへの対応や人との関わりや一人ひとりの豊かさが求められる中で、本区が将来にわたって学びと交流を通じて価値の継承と創造を続けていくためには、「区内まるごとキャンパスに」の考え方を踏襲し、著しく変化する社会情勢に柔軟に適応しながら、多様性を活かし、だれもが・いつでも・どこでも人とのつながりと心の豊かさを育みながら新たな価値を創造することを目指す必要があります。

本計画では、「学習活動」「スポーツ」「文化芸術」「観光」「国内・国際交流」の 5 つの分野の取組を一体的に展開し、分野間の連携による取組も重視しながら、多様な地域課題に対応するとともに、主役となる一人ひとりが、いきいきと楽しく自分らしく学び、交流することのできるまち「文の京」を創り上げます。

区内まるごとキャンパスに

多様性を活かし、人とのつながりと心の豊かさを育みながら、
新たな価値が生まれる「文の京」を創ります

7. 計画の推進にあたって重視する3つの視点

基本理念である「区内まるごとキャンパスに」を実現するためには、本区の地域性や豊かな資源を基盤とし、多様性を活かし、だれもが・いつでも・どこでも学習活動、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の活動を楽しむことができる視点を重視して計画を推進することが必要です。

本計画では、令和元年度に実施した「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査」（以下「実態調査」という。）の結果や文京区アカデミー推進協議会での議論などを踏まえて、以下の視点を重視しながら、異なる主体や分野をつなげ、相互に連携を図ることで新たな価値の創造を目指します。

（1）だれもが楽しめる視点・・・「人」

本区では、基本構想を貫く理念として「だれもがいきいきと暮らせるまち」を掲げ、性別や年齢、障害の有無、国籍などに関わらず、地域社会を構成するだれもがいきいきと暮らせるまちを目指しております。

これを受けて、本計画では、性別や年齢等の違いをはじめ、働いている人や子育て中の人といったライフスタイルの違い、人それぞれの興味・関心や能力の違いがあっても、だれもが各分野の活動を楽しめる取組を推進します。また、国内旅行者や訪日外国人などの交流人口だけではなく、区や区民と様々な方法で継続的に関わる「関係人口」の創出を推進します。

（2）いつでも・どこでも活動できる視点・・・「環境づくり」

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、非接触型のコミュニケーションの在り方が急速に求められ、ICTを活用した取組に対する社会の関心はより一層高まりました。さらに、人々のライフスタイルの多様化も進み、一人ひとりの好きな時に好きな場所で取り組める環境づくりが求められています。

本計画では、区内のスポーツ施設、教育施設、文化施設などで行われる接触型のコミュニケーションの取組を継続しながらも、平日・土日祝日、昼夜間を問わず、施設を訪れなくても活動を楽しめるように、ICTを活用したオンライン形式の取組等による環境づくりを図ります。

(3) 区の魅力や特性を活かす視点・・・「資源活用」

限られた財源の中で、だれもが・いつでも・どこでも活動を楽しめる取組を推進するためには、本区が有する豊富な文化資源や観光資源などの活用と、区内事業者や大学、交流自治体などの多様な主体との連携が重要です。

そのため、学習活動、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の各分野における施設の充実や、活動を支える・推進する人材の育成、これまでの取組により蓄積されたノウハウ等の継承、さらには分野を横断した取組、区内事業者や大学、交流自治体など多様な主体と連携した取組等を推進します。

なお、各分野における活動内容の多様化に伴い、分野を幅広く定義する一方で、行政が担う役割や優先順位を「地域性」などの視点から明確にした上で、取組を推進します。

8. 文京区アカデミー推進計画に関する実態調査結果の概要

本計画の策定に向けて、学習活動、スポーツ、文化芸術、観光、国内・国際交流の5分野に関する区民の意識や活動の実態を把握するため、一般区民を対象とした令和元年度にアンケート調査を行いました。

(1) 調査概要

①調査対象	満20歳以上の区民2,000人
②調査方法	住民基本台帳から無作為に抽出し、郵送配付及び郵送回収（インターネットによる回答も可）にて実施しました。
③調査期間	令和元年9月20日（金）～10月11日（金）
④回収数（率）	配付数：2,000件 有効回答数（率）：750件（37.5%）
⑤調査項目	○回答者自身に対する項目（性別、年齢、居住地区等） ○学習活動に関する項目（学習内容、方法、還元経験等） ○スポーツに関する項目（活動内容、頻度、場所等） ○文化芸術に関する項目（鑑賞内容、場所、きっかけ等） ○観光に関する項目（力を入れるべき取組、観光資源等） ○国内・国際交流に関する項目（交流状況、交流自治体の認知度等） ○横断的施策に関する項目（情報入手方法、もたらされる効果等）

(2) 調査結果のまとめ

① 学習活動

- この1年間に学習したことのある人は67.2%となっており、学習した分野は教養（文学・自然科学・文化芸術、歴史等）が26.8%、仕事に関係する知識の取得や資格取得等が24.0%と多く、年代別に見ると若い世代ほど学んでいる割合が高い傾向です。
- 学習方法については、読書が52.8%、インターネット（eラーニングを含む）が47.8%と、個人学習が多い傾向にあります。
- 学習の内容を話したり、自分の仕事や日常生活、他人や地域のために活かしたことのある人は75.7%と多いものの、他人や地域のために活かしたことのある人は19.1%と少なく、地域活動・ボランティアの情報提供や地域活動も組み込まれた講座、関連団体や活動機会のマッチングなどに力を入れるべきという意見が多くなっています。
- 文京区で学習活動を行う人が増えるために、区がより力を入れるべき取り組みとして、初めてでも取り組みやすくするという意見が58.8%、知り合いがいなくても取り組みやすくするという意見が49.2%となっており、個人が気軽に参加しやすい環境が求められています。

② スポーツ

- 区民が実施したスポーツや運動は、「ウォーキング・散歩」が66.1%で最も多くなっています。
- 区民の週1日以上スポーツ実施率は54.9%で前回調査（38.4%）より増加しており、スポーツが日常生活の中に定着しつつあることがうかがえます。
- 区民が観戦したプロスポーツ大会や世界大会等のレベルの高い試合は、「テレビやインターネット、パブリックビューイングなどの動画で家族・友人と観た」が38.7%で最も多くなっています。東京2020大会の開催決定に伴いスポーツへの関心が高まったことがうかがえます。
- 障害者スポーツに「関心がある」と回答した区民は41.9%となっており、東京都（59.2%）と比べて低くなっています。
- スポーツや運動を支える活動やボランティア活動をした区民の割合は10.7%に留まっており、支えるスポーツに取り組む区民は多くないことがわかります。

③ 文化芸術

- この1年間に外かけて文化芸術を鑑賞した人は81.2%で、国(53.9%)や東京都(72.6%)よりも高く、特に若い世代ほど割合が高い傾向です。
- この1年間に自ら文化芸術の活動をした人は32.4%で、鑑賞率と同様、国(25.3%)や東京都(30.1%)よりも高くなっています。鑑賞と活動の両面で国や東京都を上回っており、文化芸術に親しむ区民が多いことがわかります。
- 文化芸術に親しむ区民が増えるために区がより力を入れるべき取組は、気軽に親しみやすい場、区立施設の利用しやすさ、情報発信という意見が多くなっています。
- 区内の文化財の活用方法として、観光振興への活用が最も多くあげられており、他分野との連携による文化財の活用が期待されていることがわかります。
- 区内の文化芸術活動に関わったことがある人は58.6%で、活動内容は鑑賞やイベント等への参加が多く、企画・運営やボランティアなど支援をしたことがあるのは2.0%と少なくなっています。

④ 観光

- 観光振興にあたり、区がより力を入れるべき取組は、歴史的建造物や美しいまち並み等の保全・活用・創造、区内の移動手段の充実や観光案内板等、まちを歩いて楽しめる環境づくりという意見が多くなっています。
- 観光振興に活用するとよいと思う区の資源は、「六義園」、「湯島天満宮」、「根津神社」、「東京ドーム」が多くなっており、これらの資源の活用が期待されていることがわかります。
- 海外または国内の観光に関する情報の入手方法は、旅行サイト、旅行ガイドブック、家族や友人などの口コミの順に多くなっており、WEB媒体が最も身近なことがうかがえます。

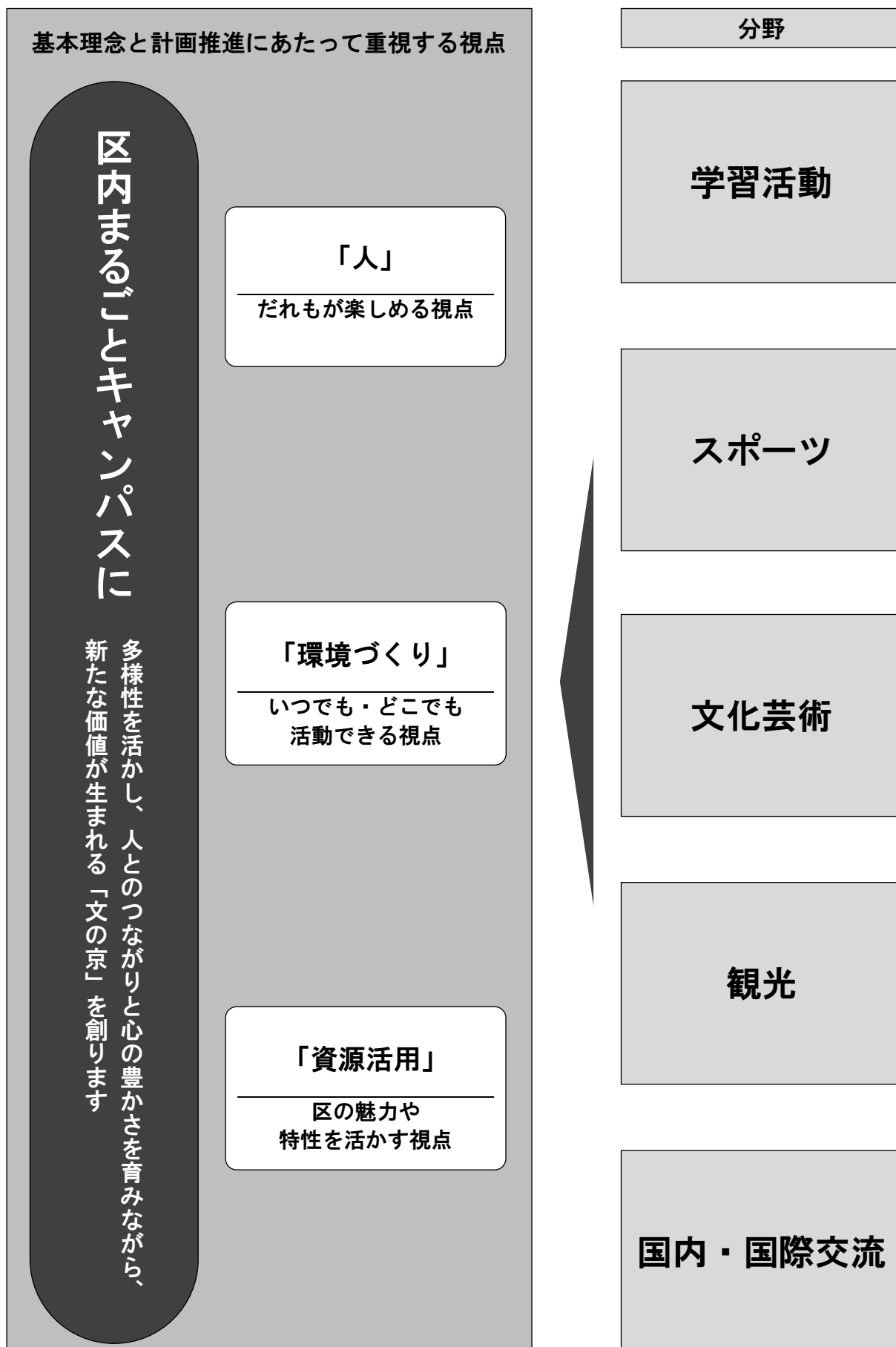
⑤ 国内・国際交流

- 区内において外国人（訪日・在住問わず）と交流している人は25.2%で、平成26年に実施した前回調査（30.6%）よりも低くなっています。区内における外国人との交流機会が充実していないと思う人が81.5%いることから、外国人との交流は一部の人に限られていることがわかります。
- 本区の姉妹都市・友好都市である「カイザースラウテルン市（ドイツ）」と「イスタンブール市ベイオウル区（トルコ）」について、区民の認知度はそれぞれ24.9%と、3.1%となっており、認知度が高いとは言い難い状況です。
- 外国人との交流の推進に向けて区がより力を入れるべき取組は、区発信の情報を外国人にわかりやすく提供する、地域イベント等に外国人が参加しやすい環境を作るといった意見が多くなっています。
- 本区と協定等を締結している国内交流自治体について、どれか1つでも知っている人は18.5%に留まっており、本区が実施する国内交流事業において参加したことがない人は83.1%いることから、国内交流自治体の認知度や交流事業への参加経験のある区民は多くないことがうかがえます。
- 国内交流の促進に向けて区がより力を入れるべき取組は、物産展の開催、大規模災害発生時の協力体制の構築が多くなっており、認知度の向上や咄嗟の時に助け合える関係づくりにつながる取組が求められていることがわかります。

⑥ 横断的施策に関する項目

- 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催決定により文京区にもたらされたこと、また開催後に期待することとしては、スポーツに対する関心や障害者への理解の高まりが多く、スポーツに親しむ人の増加や人々の多様性が重視された社会を生き抜く意識の醸成に寄与したと考えられます。
- 学習活動、スポーツ、文化芸術、国内・国際交流の4分野（観光は項目に含めていない）に関する取組についての情報入手方法は、どの分野でも区報ぶんきょうが最多であり、広報紙が一定程度浸透していることがわかります。
- 5分野に関するボランティア活動の充実に向けて、区がより力を入れるべき取組は、情報提供、活動機会、児童・青少年向け教育といった意見が多くなっています。
- 本区が5分野の施策に力を入れた場合、個人にもたらされる効果は、学習活動が「子どもの心豊かな成長」、スポーツが「心身の健康維持・増進」、文化芸術が「生きる楽しみの発見・獲得」、観光は「地域に対する愛着や誇りの醸成」、国内・国際交流が「他者や異文化に対する理解・尊重の意識啓発」が最多であり、分野により様々な点が特徴的です。
- 同様に、地域にもたらす効果は、学習活動とスポーツが「地域コミュニティの活性化」、文化芸術と観光が「文京区の魅力の向上」、国内・国際交流が「観光客や移住者の増加」が最多であり、こちらも分野により一様ではありませんでした。

9. 計画の体系



基本方針

① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり

② 学び続けるための活動の支援

③ 学びの循環による地域づくり

① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充

② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり

③ スポーツの力を活用した地域づくり

① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり

② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出

③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実

④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進

① 区内まるごと回遊の促進

② いつでも・どこでも。世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有

③ つながりから生まれる観光の推進

④ 何度でも訪れたいくなるおもてなしの環境整備

① 国内交流自治体との交流促進と相互発展

② 国際理解を育み定着に向けた機会づくり

③ 外国人が活躍できる環境づくり

10. 5分野の基本方針と施策

分野	基本方針	施策
学習活動	① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり	ア 多様なニーズに応じた学習機会の充実
		イ だれもが学びを实践できる支援の充実
		ウ 身近な学習環境の充実
		エ 地域の学習拠点としての図書館づくり
	② 学び続けるための活動の支援	ア 区民の主体的な学習活動の支援
		イ 活動の成果を発揮できる場の充実
		ウ 学びを通じた交流・仲間づくりの推進
	③ 学びの循環による地域づくり	ア 地域の学びを促進する人材育成の推進
		イ 人材活用の仕組みの構築
ウ 地域の資源を活かして学びを深める取組の推進		

分野	基本方針	施策
スポーツ	① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充	ア スポーツの楽しさを知る機会の創出
		イ ユニバーサルスポーツの普及振興
		ウ スポーツ観戦の場と機会の拡充
		エ スポーツボランティア等の活動支援
	② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり	ア 気軽にスポーツを楽しめる環境の整備
		イ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備
		ウ スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開
		エ スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化
		オ 心身の健康づくり
	③ スポーツの力を活用した地域づくり	ア スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり
		イ プロスポーツ団体等との連携・協働
		ウ レガシーの継承と活用
		エ 人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働
		オ スポーツの魅力を体感する機会の充実

分野	基本方針	施策
文化芸術	① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる（鑑賞・観覧等）】	ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実
		イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供
		ウ 活動に繋がる契機としての鑑賞機会の提供
	② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する（活動・参加等）】	ア 文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実
		イ 市民団体等の活動に対する支援の充実
		ウ 文化芸術活動の場の提供
	③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】	ア 次世代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実
		イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成
		ウ 多様な主体との連携・協力による文化資源の継承
	④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進	ア 文化資源を活用した事業の推進
		イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信
		ウ 地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進

分野	基本方針	施策
観光	① 区内まるごと回遊の促進	ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出
		イ マイクロツーリズムの推進による回遊性の向上
	② いつでも・どこでも。世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有	ア 観光情報の収集・発信力充実と共有促進
		イ 情報発信環境の整備
	③ つながりから生まれる観光の推進	ア 他分野（文化・芸術、スポーツ等）との融合
		イ 国内外の協定締結自治体や近隣自治体等との連携・協力
	④ 何度でも訪れたいくなるおもてなしの環境整備	ア 観光客の受入基盤整備
		イ 多様な人材の育成・活用

分野	基本方針	施策
国内・国際交流	① 国内交流自治体との交流促進と相互発展	ア 交流自治体の魅力発信とPRの充実
		イ 交流自治体との交流の活性化
		ウ 横断的な交流事業の展開
	② 国際理解を育み定着に向けた機会づくり	ア 海外都市との交流の活性化
		イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有
		ウ 横断的な交流事業の展開
	③ 外国人が活躍できる環境づくり	ア 多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実
イ 外国人の活躍できる場の提供支援		

第2章 5つの分野の施策

1. 学習活動

(1) 学習活動とは

学習活動は、前計画の生涯学習分野にあたり、子どもから大人まで生涯に行うあらゆる学習、趣味や生きがい、キャリアアップなどのために、自由に機会を選択して行う学習のことと定義づけます。学びの中で得た自分の知識を人のためや地域づくりに活かすことや、様々な啓発活動事業等に参加することも学習活動であると言えます。一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう、生涯にわたって、いつでも、どこでも学習し、その成果を活かすことのできる社会の実現をねらいとしています。

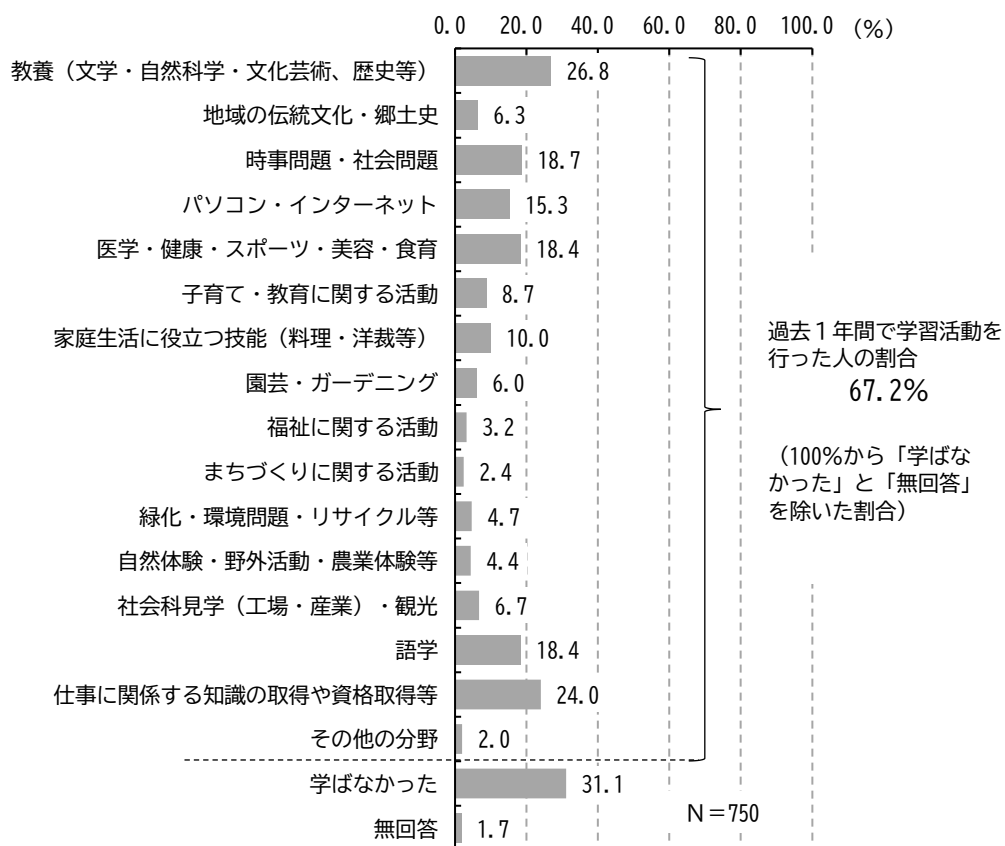
(2) 現状と課題

① だれもが参加しやすい学習機会の提供

本区では、(公財)文京アカデミーが実施する「文京アカデミア講座」をはじめ、これまで多くの教育機関や企業等と連携しながら、多様な学習活動の機会の提供と環境づくりに取り組んできました。実態調査によると、直近一年間のうちに何らかの学習活動をしたことのある区民の割合は67.2%です。多くの区民の学習活動への関心は高く、子育て中、高齢者などだれもが生涯を通じて学ぶことのできる環境づくりが求められており、あわせて区民への適切な情報発信が必要です。また、年齢や国籍、障害の有無等に関わらずだれもが思い立ったときに学びを実践できる機会の充実と学習活動の場の提供が大切です。

また、学習活動の核となる図書館は、地域資料の収集や学習に必要な情報の収集・提供等と併せて、区民に身近な地域の学習拠点としてさらなる活用を検討する必要があります。また、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律(読書バリアフリー法)」の施行により、障害の有無に関わらず全ての人が等しく読書に親しむための環境整備が求められています。

この1年間に学んだ分野



【出典】実態調査

② オンラインを活用した学習機会の提供と支援

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、これまで行ってきた対面形式の活動等が難しい状況となり、事業をオンライン形式で実施するなど、コロナ禍においても区民の学習機会の確保に努めてきました。また、図書館では非来館・非接触型のサービスとして電子書籍やオーディオブック等、ICT を活用した図書館サービスの充実を図っています。

今後、オンラインでの多様なサービスや学習機会の提供など、新しい技術を活かした学びの提供が求められており、オンラインと対面の相乗効果を生むような「ハイブリッド型」の講座の開催などを進めていくことが必要です。

また、SNS を活用した情報発信や、ICT 社会に対応するため指導者と受講者双方の育成、高齢者などの情報弱者、経済的な状況による学習機会の格差に配慮したデジタルデバイド対策が必要です。

③ 学びの成果を生かし活動へとつなげる人づくり

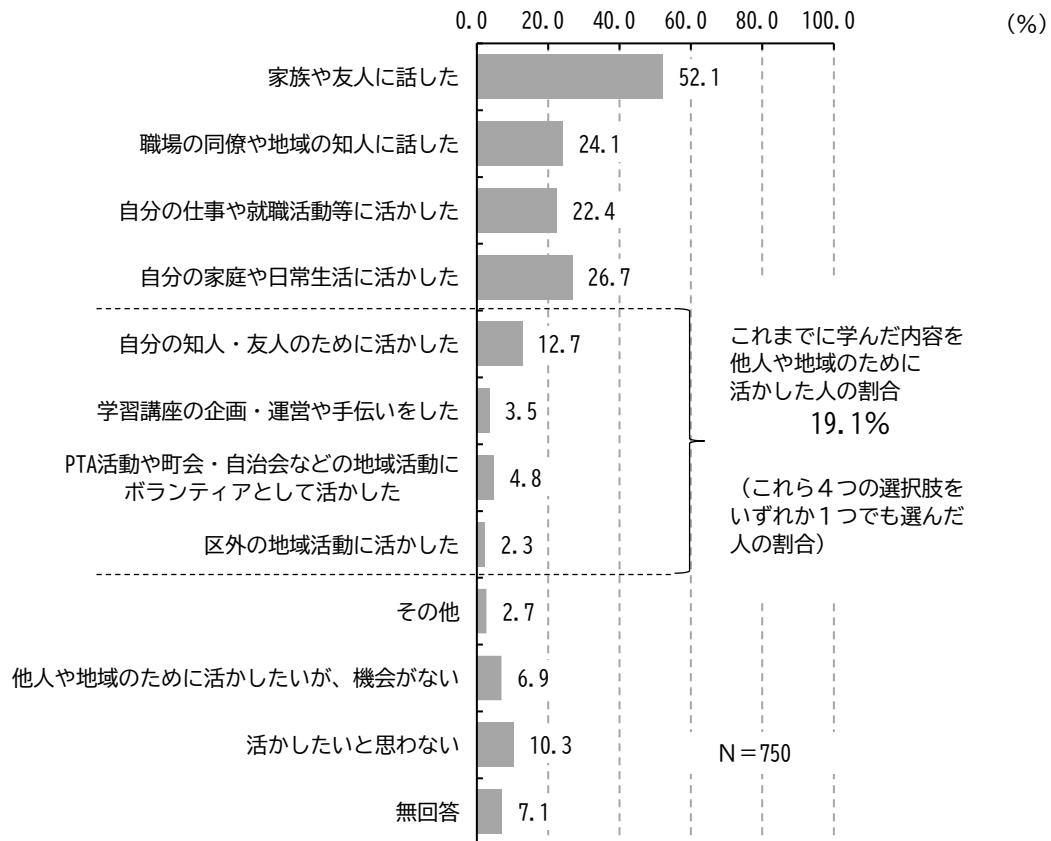
本区は、区民自らが学習活動の担い手となり、区と協働しながら活動に取り組めるよう、生涯学習司、地域文化インタープリター、アカデミアサポーターを養成するなど、人材育成・活用を推進してきました。しかしながら、このような人材を活用する仕組みが不十分であるため、地域の学習活動を支える中心的役割を担う人材が不足しており、次の世代の育成が求められています。

一方で、実態調査をみると、読書を通じて学んだ区民は 52.8%、インターネットを通じて学んだ区民は 47.8%となっており、個人学習に特化している傾向がみられ、集団で学習活動を行う人が増えるためには、初心者や知り合いがいない人でも取り組みやすい環境づくりが求められています。知識や技術を伝える側と学習する側とを結び付けながら、学びあいをきっかけとした交流の推進と成果を生かす場をつくり、学びの成果を地域社会へ還元する人づくりが必要です。

④ 学習活動環境の充実に向けたネットワークの構築

実態調査をみると、「区民が学習活動で得た内容を地域や人のために活かすため、区がより力を入れるべき取組」として、「地域活動・ボランティアの情報提供」「地域活動も組み込まれた講座」が挙げられています。地域のつながりが希薄と言われる中、地域における学習活動環境の充実が大切です。そのためには、町会や関係機関、家庭などさまざまなネットワークと学習活動を通じて、区民につながりづくり、地域づくりに活かす意義や必要性を伝え、理解してもらうことが重要です。

これまでに学んだ内容を他人や地域のために活かした人の割合



【出典】実態調査

現状と課題のまとめ

- ①だれもが参加しやすい学習機会の提供
- ②オンラインを活用した学習機会の提供と支援
- ③学びの成果を生かし活動へとつなげる人づくり
- ④学習活動環境の充実に向けたネットワークの構築

(3) 施策体系の考え方

現状と課題を踏まえると、だれもが、いつでも、どこでも学びを实践できる機会を充実させることが重要です。

地域で学習活動を推進するにあたっては、区民一人ひとりの主体性を重んじるとともに、学習する側と知識や技術を伝える側双方の育成をすることで、人づくり、つながりづくり、地域づくりが促進され、活動の活性化が期待できます。

また、学習活動は、持続可能な社会をつくっていくために、必要な知識や技術を身につけるものとして重要な役割を担っています。学習が生涯にわたって、豊かな人生を送るための助けや様々な課題を解決する力となり、個人の活動からグループ、地域での活動と交流へつなげられるよう推進します。

(4) 施策体系

学習活動分野の施策体系と、第1章で示した「計画の推進にあたって重視する3つの視点」との整合性は以下のとおりです。

基本方針	施策	人	環境づくり	資源活用
① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり	ア 多様なニーズに応じた学習機会の充実	○	○	
	イ だれもが学びを实践できる支援の充実	○	○	
	ウ 身近な学習環境の充実		○	○
	エ 地域の学習拠点としての図書館づくり	○		○
② 学び続けるための活動の支援	ア 区民の主体的な学習活動の支援	○	○	
	イ 活動の成果を発揮できる場の充実	○	○	
	ウ 学びを通じた交流・仲間づくりの推進	○	○	
③ 学びの循環による地域づくり	ア 地域の学びを促進する人材育成の推進			○
	イ 人材活用の仕組みの構築			○
	ウ 地域の資源を活かして学びを深める取組の推進			○

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

① だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくり

日常の中の興味や関心、生活や地域の中で生まれた課題など、人々の学びのきっかけは様々です。だれもが自分の好きな時に学習活動を実践できるよう、多様なニーズに柔軟に対応しながら取組を充実させることが重要です。

区民が身近で楽しめるものから、専門的に学ぶことができるものまで幅広く質の高い学習機会を提供します。

また、年齢や性別、障害の有無や国籍の違い等に関わらず、若年層や働き世代、子育て世代なども含め、個人の様々な状況に応じた学習を実践することができるよう、ICT を活用したオンライン講座など、新たな学習スタイルに対応した取組や、地域の学習拠点としての図書館の充実など、だれもが、いつでも、どこでも学べる環境づくりを推進します。

指標	現状値	目標値
過去1年間で学習活動を行った人の割合	67.2% (令和元年度)	検討中

ア 多様なニーズに応じた学習機会の充実

区民の多様なニーズに対応した幅広い分野の講座等の提供に取り組みます。気軽に参加できる初心者向けのものをはじめ、大学・企業等と連携した専門性の高いものまで、区民の学習状況に合わせた多様なプログラムを展開します。

主な取組

■様々な分野の講座・講演会等の実施

区民の学習を支援するため、(公財)文京アカデミーの実施する「文京アカデミア講座」をはじめ、地域、歴史、社会、環境、男女平等、健康等様々な分野の講座や講演会等を実施します。

イ だれもが学びを実践できる支援の充実

区民一人ひとりの状況に応じて学習に取り組むことができるよう、区報・ホームページ・SNS 等による学習機会の情報発信や ICT を活用した学習方法など様々な学習支援・相談の充実を図ります。

また、働く世代などに配慮した夜間や休日を利用した学習機会の提供、デジタルデバイス対策としての講座の実施など、学習を始める際の課題に対応できるよう取組を推進します。

主な取組

■学習活動に関する効果的な情報発信と相談・紹介

各所管課で実施されている講座も含め、各種講座の開催や社会教育関係団体の活動等の学習活動に関する情報の集約と発信に取り組みます。また、区民がそれぞれのニーズや目的に応じて学習活動に取り組むことができるよう、学習活動の相談・紹介を行います。

■ライフスタイルに応じた学ぶ機会の提供

働く世代や子育て世代などが学習活動に取り組むことができるよう、夜間や休日等を利用した学習機会を提供します。

■情報化社会に対応した学習活動の支援

ICT を活用した学習活動の機会や情報等を提供するとともに、インターネットの利用方法やパソコン、タブレット端末、スマートフォン等の操作方法についての講座を開催するなど、だれもが気軽に活用できるように支援を行います。

ウ 身近な学習環境の充実

アカデミー文京・地域アカデミー等の施設を区民に貸し出し、自主的な学習活動を行う環境の向上に努めます。

インターネットによる施設予約の利便性向上をはじめ、図書館での電子書籍・オーディオブック等の資料の充実を図るほか、オンライン形式の講座を実施するなど、ICTを活用して学習環境を充実します。

主な取組

■オンライン形式での講座等の実施

時間や場所にとらわれず各種講座等を受講できるように、インターネットを活用して講座を実施します。

■施設利用の利便性向上

区の施設で様々な活動を行う団体等の利用について利便性を向上するため、施設予約システムの機能向上や施設の適切な管理運営に取り組みます。

■さまざまな媒体の資料の充実

図書館では、電子書籍やオーディオブック等、アクセシブルな資料の充実を図ります。また、アカデミー文京では地域での学習活動を支援するため、視聴覚学習資料等を地域の幼稚園、小・中学校、社会教育登録団体、個人等に貸出します。

エ 地域の学習拠点としての図書館づくり

だれでも利用できる地域の学習拠点として、図書館サービスの充実に取り組みます。

文京区立図書館は、真砂中央図書館をはじめとする8図書館と2図書室及び1取次拠点があり、区内ほとんどの地域から半径1km圏内に図書館の窓口が配置されています。区民にとっての身近な知識や情報、学習のよりどころであり、新しい発見や学習のきっかけが生まれることも多くあります。区民の様々な学習を支えるため、多様なニーズに対応した資料提供と情報発信の充実を図ります。

主な取組

■図書館資料の充実

図書館の利用促進を図るため、点字図書、拡大図書などバリアフリーに配慮したアクセシブルな資料も含め、図書館資料を充実します。

■図書館での学習機会の提供

地域の歴史、文化、家庭教育等利用者の関心にあわせたテーマの講座等を実施します。

② 学び続けるための活動の支援

生涯にわたって学習活動を行うためには、個人の学びの動機や意欲はもちろんのこと、ともに学ぶことのできる仲間づくりや活動の成果を披露する場が重要です。

学びを通じて交流することは、学びが学びを引き寄せ、各々個人の持つ知識や技術、視点が新しい刺激となって、より充実した活動になることが期待されます。

また、学習や経験で得られた学びを発表したり、披露したりすることは、学びによる効果的な気づきの場でもあります。自らの学習を振り返り、やりがいと達成感を得ながら継続的に学習活動に取り組むことを支援します。

指標	現状値	目標値
社会教育関係団体のアカデミー施設利用者数	38,587人 (令和2年度)	検討中

ア 区民の主体的な学習活動の支援

学習活動を通じて区民同士が交流し、継続的な活動を行うため、サークルや団体を含めた区民の主体的な活動を支援します。

主な取組

■区民の自主的なサークル・団体への活動支援

文化・スポーツ・学習活動を行う団体として登録された社会教育関係団体に対して、施設の優先利用や利用料金の減免などを行います。また、文京区生涯学習サークル連絡会によって実施される公開講座、合同学習会等の各種自主学習活動への支援を行います。

イ 活動の成果を発揮できる場の充実

個人や団体の様々な活動において、学習意欲の向上を図り、また、これから活動を行う人にとってのきっかけを作るため、学習の成果を披露できる場の充実を図ります。

主な取組

■区民が学習活動の成果を披露するイベントの実施

日頃の活動内容の発表や、団体間・地域の人々同士の交流を図ることにより、活動する人、活動してみたい人の学びの意欲が一層高まるイベントを実施します。学習活動を行う多様な団体が参加する生涯学習フェアをはじめ、区内の様々な学びの場で活動が広がるように取り組みます。

ウ 学びを通じた交流・仲間づくりの推進

オンライン上での交流を含めた交流型の学習機会を充実し、ともに学習活動に取り組む仲間づくりを推進します。

主な取組

■交流事業の実施

地域活動センターや交流館等において、幅広い年代の区民が参加する各種イベントや様々な教室を開催します。また、多様な活動の活性化を図るため、ボランティア・市民活動団体の交流の場を設けるなど、各活動の支援となる交流事業を行います。オンライン形式での交流機会の創出に取り組みます。

③ 学びの循環による地域づくり

知識や技術を他者に伝えていくことで、学びが人と人をつなぎ、新たな知を生み出すことができます。

学習活動を通じて知識やスキルを習得した区民が、担い手となって地域で様々な活動を行い、学びが地域の中でつながっていく仕組みを構築することにより、地域コミュニティの活性化につなげていきます。

地域の文化や資源を活用した多様な学習機会を提供し、特色ある取組を充実します。

指標	現状値	目標値
これまでに学んだ内容を他人や地域のために活かした人の割合	19.1% (令和元年度)	検討中

ア 地域の学びを促進する人材育成の推進

活動の担い手となる人材を育成するため、「文京アカデミアサポーター」「文の京生涯学習司」「文の京地域文化インタープリター」をはじめとした各種資格制度や活動の周知を図るとともに、資格取得者の交流を促進し、区民同士の連携を深める場づくりを推進します。また、次の世代の担い手の育成や活動の継続につなげる取組を行います。

主な取組

■学習支援者育成のための講座の実施

生涯学習に関し、区や公益財団等と協働する人材を育成するため、「文の京生涯学習司」、「文の京地域文化インタープリター」「文京アカデミアサポーター」の3つの養成講座を実施します。また、より多角的な活動を行う技能等を学習するため、スキルアップ講座も実施します。

■学習活動を通じたボランティア、サポーターの育成

高齢者、障害者、子育てや環境活動など地域の様々な支援を行う担い手として、区民が自主的に様々な活動を行うことができるよう、専門的な知識やスキルを身につけるための講座を実施します。

イ 人材活用の仕組みの構築

活動で得た知識やスキルを持つ区民が、地域活動の担い手となるための取組を推進し、区民が活躍できる場や機会の充実を図ります。

主な取組

■区民を講師とした講座の実施

区民の学習の成果やNPO等の団体のノウハウを活かし、地域に還元するため、区民を講師とした講座等を実施します。

■各種講座・展示会の企画への起用

インタープリターや生涯学習司等の活躍を支援し、区の文化事業に活かしていく事業（企画展等）を展開します。

ウ 地域の資源を活かして学びを深める取組の推進

地域の文化や資源を活用した学習機会を提供するため、区内で活躍する人材や大学などの教育機関といった多様な資源を活かした取組を推進します。

主な取組

■文京区について知るための講座の実施

地域の各種団体の要望に応じ、区職員を講師として派遣し行政情報を講座形式で提供する取組や、区の地域文化について学ぶ講座を実施します。

■大学連携による講座等の開催

大学の持つ高度で専門的な学習機能や人材を活かし、区民に学習機会を提供するため、区内大学と連携した事業を展開します。

2. スポーツ

(1) スポーツとは

一定のルールが定められた競技スポーツだけでなく、ウォーキングやレクリエーションなどの気軽に楽しむことのできる活動等もスポーツととらえます。

区民の年齢、性別、障害の有無や体力等に左右されることなく、だれもが健康づくりのほか、仲間同士の交流やストレス解消等につながるスポーツに取り組むことで、いきいきと自分らしい生活を送っていくことを目指します。

(2) 現状と課題

① 区民の意識と行動

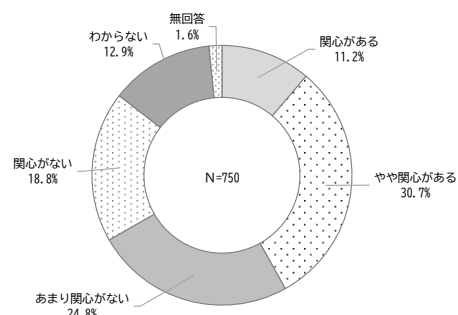
区民の週1日以上スポーツ実施率は54.9%。前回調査(38.4%)時より増加しています。

過去1年間にスポーツを実施しなかった理由をみると、「仕事が忙しい」が35.8%と最も多く、次いで「家事・育児・介護などが忙しい」が25.9%となっています。いつでもどこでもスポーツに親しむことができるよう、ICTの活用を始め、多様なライフスタイルに合わせた環境整備等が求められています。

障害者スポーツに「関心がある」が41.9%（「関心がある」と「やや関心がある」の合計）と、東京都(59.2%)と比べて低くなっています。これまでの取組により醸成したユニバーサルスポーツの気運を引き続き、維持・向上していくことが必要です。

週1日以上スポーツ実施率

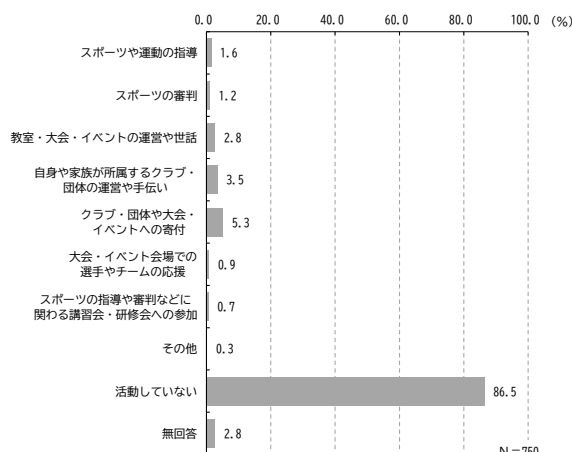
対象	割合
今回調査	54.9%
前回調査	38.4%
国	55.3%
都	57.2%



② スポーツの楽しさを知る機会の創出

これまで、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え、初心者教室や区民大会等、各種スポーツ事業を実施してきましたが、引き続き、ライフステージ・スタイルに応じて、すべての人がスポーツの楽しさや価値を実感できる取組が必要です。

また、「する」「見る」「支える」スポーツ環境のさらなる充実に向け、ボランティアへの区民参加の促進やスポーツ指導者の養成等を進めることによる担い手の安定的な確保と技術向上、知識の深化が必要です。



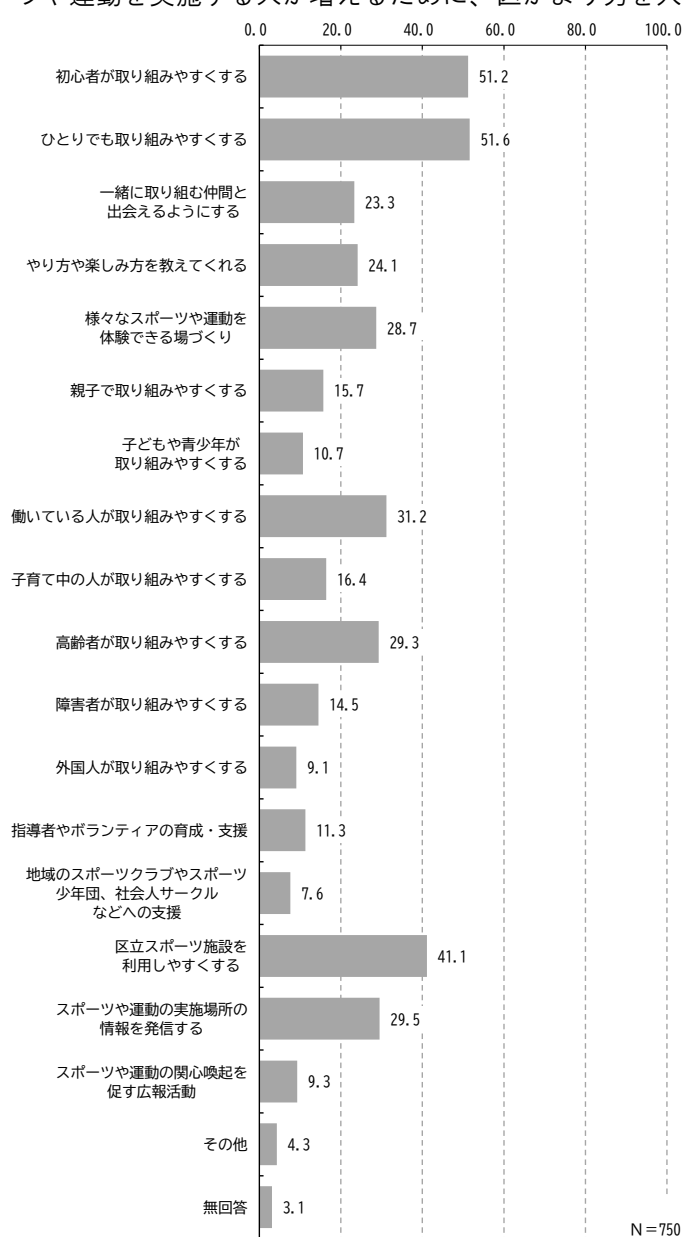
【出典】実態調査

③ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備

区報を始め、CATV、ホームページ、報道機関への情報提供などを通じ、各種スポーツ事業の実施について情報を発信しています。今後も、求める人に適切なタイミング、方法でスポーツに関する情報を確実に提供する工夫が必要なほか、障害者スポーツ教室は周知先を再考し、障害者スポーツに関心がない層にも情報を届けることが求められています。

また、多様なライフスタイルに合わせ、いつでもどこでもスポーツに親しめるよう様々な手段を活用し、情報を発信していくことが求められています。

文京区でスポーツや運動を実施する人が増えるために、区がより力を入れるべき取組の視点



【出典】実態調査

④ プロスポーツ団体等との連携・協働

これまで区内に本拠地のあるプロスポーツ団体等と協定を締結し、地域においた連携の取組を推進してきました。

東京 2020 大会を契機に高まったスポーツへの関心が一過性のものとならないよう、引き続きプロスポーツ団体等を含めた関係団体と連携・協働した取組が求められています。

区民がボランティア参加で培った「支える精神」や、ホストタウン事業を通じて深められた国際理解なども、今後東京 2020 大会のレガシーとして継承していくことが必要です。

⑤ スポーツを通じた交流の促進

これまで、「あすチャレ！運動会」やブラインドサッカー観戦・体験イベントの実施など、障害者スポーツの普及・発展に取り組んできました。今後も年齢や障害の有無等に関わらず、だれもがスポーツに親しめる機会を提供するとともに、世代間交流や地域間交流の促進と地域コミュニティの活性化に取り組んでいくことが必要です。

共生社会の実現に向けては、引き続き、大学や企業等、各競技団体と連携・協働を進めるほか、障害者が自主的に取り組める環境の整備も必要です。

障害者スポーツをユニバーサルスポーツへと昇華させるため、種目や魅力の紹介、体験機会の充実等、だれもが一緒に楽しめる機会の提供に取り組んでいくことが必要です。



現状と課題のまとめ

- ①区民の意識と行動
- ②スポーツの楽しさを知る機会の創出
- ③スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備
- ④プロスポーツ等団体との連携・協働
- ⑤スポーツを通じた交流の促進

(3) 施策体系の考え方

スポーツは、個人の心身の健康の保持・増進だけでなく、人と人、地域と地域の交流を促進したり、地域のコミュニティを醸成したり、新たな文化にふれるきっかけになるなど、人々が健康で豊かな生活を送るために大きな効果をもたらします。

本計画では、スポーツを「する」人だけでなく、プロスポーツ団体やアスリートによる競技種目等を「見る」人、指導者やスポーツボランティア等の「支える」人、そして、スポーツを通じた仲間づくりといったスポーツのもつ力に着目し、区民一人ひとりの生活がより健康で豊かなものとなる取組を進めていきます。

(4) 施策体系

スポーツ分野の施策体系と、第1章で示した「計画の推進にあたって重視する3つの視点」との整合性は以下のとおりです。

基本方針	施策	人	環境づくり	資源活用
① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充	ア スポーツの楽しさを知る機会の創出	○		
	イ ユニバーサルスポーツの普及振興	○		
	ウ スポーツ観戦の場と機会の拡充	○		
	エ スポーツボランティア等の活動支援	○		
② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり	ア 気軽にスポーツを楽しめる環境の整備		○	
	イ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備		○	
	ウ スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開		○	
	エ スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化		○	○
	オ 心身の健康づくり	○	○	
③ スポーツの力を活用した地域づくり	ア スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり	○		○
	イ プロスポーツ団体等との連携・協働			○
	ウ レガシーの継承と活用	○		○
	エ 人材・組織(町会・地域クラブ)との連携・協働	○	○	○
	オ スポーツの魅力を感じ取る機会の充実	○		

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

① だれもがスポーツを身近に感じる機会の拡充

ウォーキングイベントやウォーキングガイド・マップの作製、親子参加事業など、子どもから高齢者まで、幅広い年齢が参加できる事業を実施しているほか、障害者スポーツ観戦・体験イベント等を実施し、「する」「見る」「支える」スポーツの機会提供に努めています。生涯にわたって、心身ともに健康な生活を送れるよう、今後も年齢、性別、国籍、障害の有無、ライフスタイルや興味・関心の度合い等に関わらず、だれもがスポーツを身近に感じ、「する」機会を拡充していきます。

また、「見る」スポーツを通して関心を持ち、楽しさを知るきっかけを充実していくとともに、「支える」スポーツへも積極的な参加を促し、ともに楽しむ機会を充実していきます。

指標	現状値	目標値
スポーツ実施率【スポーツをする】	54.9% (令和元年度)	検討中
スポーツ観戦率【スポーツを見る】	23.7% (直接観戦) (令和元年度)	検討中
スポーツボランティアの参加率【スポーツを支える】	10.7% (令和元年度)	検討中

ア スポーツの楽しさを知る機会の創出

スポーツを身近に感じて取り組むにはまず、スポーツの楽しさを知ることが重要だといえます。年齢や技術に関わらず区民のだれもが気軽にスポーツを体験できる機会を充実し、スポーツに興味を持ち、始めるきっかけや継続するための取組を推進します。

主な取組

■区民が気軽にスポーツを体験できる機会の提供

区民が気軽にスポーツを体験できるよう、年齢や体力・運動能力、スポーツへの関心の度合いに応じた各種スポーツ教室等を開催します。開催にあたっては、屋外スポーツ施設のほか学校等の身近な施設の活用を検討していきます。

■主体的にスポーツを楽しむ区民に向けた機会の提供

幅広い年齢層の区民が、自らの健康を維持・増進するだけでなく、日ごろの成果を試したり、日常とは異なる環境でスポーツを楽しむ機会を提供していきます。

イ ユニバーサルスポーツの普及振興

これまでスポーツに関心がなかった障害者が、スポーツを楽しむきっかけづくりとなる事業の開催やスポーツ施設の利用の機会を充実します。

また、障害の有無や年齢の違い等に関わらず一緒にスポーツをする機会を増やすことで、障害者のスポーツをする機会の充実を図るとともに、健常者に対して障害者スポーツへの理解を育みます。

主な取組

■ユニバーサルスポーツを体験する機会の提供

障害の有無等に関わらず、だれもが一緒にスポーツを楽しむ機会を確保するため、様々な障害者スポーツやニュースポーツを「する」教室の開催や「見る」機会を提供します。

■障害者スポーツを「支える」人材の育成

障害者スポーツの普及振興を図るため、スポーツ指導者が障害者スポーツの指導員資格を取得するための費用の助成や活動の場についてサポートを行い、障害者スポーツを「支える」人材を育成していきます。

ウ スポーツ観戦の場と機会の拡充

区民や地域のスポーツ団体、大学、企業等と連携し、身近な環境でスポーツを観戦する機会をつくり、一体となってスポーツを観戦・応援する楽しさを伝えます。

スポーツ団体等と連携・協働し、競技スポーツの魅力を伝え、観戦機会の拡充に取り組みます。

主な取組

■プロスポーツ等団体と連携した観戦の場と機会の拡充

読売巨人軍、日本サッカー協会との協定に基づき、観戦事業のほか選手との触れ合いの場や機会を提供していきます。

また、区内に拠点を置くスポーツ団体・企業・大学等との協働により、各種スポーツの体験教室及びスポーツ観戦事業を実施します。

■身近な場所でスポーツを観戦・応援する楽しさを実感する機会の提供

区民ひろばやシビックホール等において、国際大会やプロスポーツを皆で観戦・応援し、スポーツの楽しさを共有する機会を提供します。

エ スポーツボランティア等の活動支援

スポーツ活動を支えるボランティア等の育成に取り組むとともに、組織間の連携・協働を進め、主体的にスポーツを支える区民の活動を支援していきます。

主な取組

■「支えるスポーツ」の担い手の育成

「支えるスポーツ」の担い手として、スポーツボランティアの登録を促進するとともに、人材育成に取り組めます。

また、スポーツボランティア登録者が、より多くの情報に触れ、様々な活動の機会を得ることができるよう、スポーツボランティア参加イベントの募集や活動状況の報告、参加者の声等、スポーツボランティアに関する情報を広く発信していきます。

■障害者スポーツを「支える」人材の育成【再掲】

障害者スポーツの普及振興を図るため、スポーツ指導者が障害者スポーツの指導員資格を取得するための費用の助成や活動の場についてサポートを行い、障害者スポーツを「支える」人材を育成していきます。

② いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくり

スポーツには世代間交流や地域間交流の促進等も期待されています。そのためには区民一人一人がスポーツに親しむことのできる環境の整備が必要なことから、スポーツリーダー派遣制度やニュースポーツ大会の実施のほか、施設の改築やバリアフリー化にも取り組んできました。だれもが利用しやすいと感じることができる施設整備を推進するとともに、様々な場所で日常的にスポーツに取り組めるよう、地域やコミュニティ単位でスポーツの場を充実していきます。

また、自己の能力や適性・興味等に合わせ主体的にスポーツに取り組めることも重要であるため、必要とする人に適切なタイミング、方法でスポーツに関する情報を提供するとともに、スポーツに親しむ人を適切にサポートできる指導者・団体の育成・技術強化に取り組み、区民のだれもが、いつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりを進めます。

指標	現状値	目標値
施設満足度（出典：指定管理者アンケート）	確認中	検討中
スポーツ指導者（スポーツ推進委員・スポーツリーダー）派遣の実績件数	確認中	検討中

ア 気軽にスポーツを楽しめる環境の整備

区民のだれもが気軽に利用できる屋内・屋外施設の適正な維持・管理・運営に取り組めます。また、区立学校等のほか区内大学と連携し、身近な場所でスポーツを楽しむことができる環境の整備・活用の促進に取り組めます。

主な取組

■多世代が気軽にスポーツを楽しむ機会の提供

子どもから高齢者まで幅広い年齢層の区民が、スポーツの楽しさを知り自らの健康の維持・増進を図るきっかけをつくる機会を提供していきます。

■スポーツ施設の整備と活用促進

区立スポーツ施設の快適な環境への整備をはじめ、区立学校のスポーツ施設等の活用による、スポーツ活動の場の整備を進めていきます。

また、未就学児童の外遊びの機会の提供を目的とした、屋外スポーツ施設活用を促進していきます。

イ スポーツに関する情報の発信と相談体制の整備

より多くの区民がいつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるよう、区報による周知とともに、SNS や YouTube 等による多様な手法と庁内での連携強化を検討し、求める人への適切な情報提供に取り組んでいきます。

また、区内大学や各種スポーツ団体等の専門機関等と連携し、区民のスポーツに関わる様々な相談に対応できる体制を一層充実していきます。

主な取組

■スポーツに関する情報の発信

地域スポーツを普及・振興するため、区のスポーツ事業や地域スポーツ団体についての情報を発信していきます。

また、スポーツボランティア登録者やスポーツ交流ひろばの指導員に向けて、活動・実践につながる情報を提供していきます。

■各種メディアとの連携推進

区の魅力的なスポーツ事業等の取組を、報道機関等をはじめ各種メディアにリリースし、広く、内外へ発信していきます。

■スポーツに関する相談体制の整備

区内大学や各種スポーツ団体等の専門機関等と連携し、区民のスポーツに関わる様々な相談に対応できる体制を一層充実していきます。

ウ スポーツを楽しむ人を増やす事業の展開

スポーツに関わる団体や事業者等が、連携・協働して、区民の多様なニーズやライフスタイル等に応じた教室や企画を提供していくための支援を行います。団体、事業者等への支援を通して、スポーツを楽しむ区民を増やしていくための取組を推進します。

主な取組

■スポーツを支える人材の活躍の場や機会の提供

区民の自主的なスポーツ・レクリエーション活動を促進する団体等の育成や活動への支援と、活躍の場や機会の提供に取り組んでいきます。

水泳、卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、ビーチボール、合気道、弓道、アーチェリー、柔道、剣道、ミニテニスなどの種目については、個人向けにスポーツ施設を開放するとともに指導員を配置します。

■主体的にスポーツを楽しむ区民に向けた機会の提供【再掲】

幅広い年齢層の区民が自らの健康を維持・増進するだけでなく、日ごろの成果を試したり、日常とは異なる環境でスポーツを楽しむ機会を提供していきます。

エ スポーツ指導者等の育成と確保、技術の強化

スポーツ推進委員、スポーツリーダー等の指導者について、若手指導者や新たな人材の確保に努めるとともに、区民の多様なニーズに対応できる人材の育成を進めます。

区民が運動するにあたって、指導者の特性や専門性を活かし、区民の年齢や体力等の状況に、きめ細かく対応できるような体制を整えます。

主な取組

■スポーツ指導者等の育成

スポーツの指導に関わる人材の発掘・育成とともに、指導者としての資質向上を図るため、スポーツ推進委員、スポーツリーダー、スポーツ交流ひろばの指導員等を対象に各種研修会を実施します。

オ 心身の健康づくり

子どもの体力向上、高齢者への予防医療等、区民一人ひとりが目的やライフスタイルに合わせてスポーツに親しめるよう、多様な主体と連携・協働し、幅広く施策を展開していきます。

主な取組

■多様な区民の心身の健康増進

幅広い年齢層の区民が、自らの健康の維持・増進に資するスポーツの機会を提供していきます。身体活動だけでなく、参加者同士のスポーツ活動を通じた交流やコミュニケーションの機会を充実していくことで、こころの健康増進にも取り組んでいきます。

③ スポーツの力を活用した地域づくり

区民一人ひとりが心身ともに豊かな生活を送ること目指して、各種競技団体や組織と組織、地域と地域の交流・連携・協働を促進していきます。

スポーツの力を活用して地域コミュニティを醸成していくとともに、区内外の人にとって本区が魅力的なまちだと感じることをできるよう、スポーツ団体等との連携・協働にも積極的に取り組んでいきます。

指標	現状値	目標値
スポーツ団体等との連携事業数	確認中	検討中
関係（パラ団体含む）団体との連携事業数	確認中	検討中

ア スポーツを通じた仲間づくりと地域づくり

スポーツの力を活用して人と人とのつながりを育み、地域のコミュニティを醸成していく取組を推進します。また、年齢や障害の有無等に関わらず、多様な区民の仲間づくりにつながるスポーツを伴うきっかけづくりに取り組んでいきます。

また、人と人をつなぐを育み、交流を促進していくことで、スポーツを通して地域がより魅力的になる取組を推進していきます。

主な取組

■スポーツを通じた多様な区民の交流の促進

スポーツ活動を通して親子や幅広い年齢層からなる参加者同士の交流を促進していきます。

また、東京近郊での軽登山やノルディックウォーキングなどの自然のなかで楽しめるスポーツ事業を通して、共通の趣味を持つ区民同士の交流も促進していきます。

■スポーツを通じた仲間づくりの促進

年齢や障害の有無に関わらず、各種スポーツ・レクリエーション活動により楽しみながら体を動かすことを通して、仲間づくりの機会とスポーツへのきっかけづくりの場を提供していきます。

イ プロスポーツ団体等との連携・協働

プロスポーツ団体等と連携・協働し、区民が「見る」スポーツをきっかけにアスリートと交流することでスポーツの魅力を知り、さらに関心を持つためのきっかけを充実していきます。また、区内に拠点をもつスポーツ等団体と協働し、スポーツをきっかけにして地域への愛着を育むための取組を実施します。

主な取組

■プロスポーツ団体等と連携した観戦の場と機会の拡充

読売巨人軍、日本サッカー協会との協定に基づき、観戦事業のほか選手との触れ合いの場や機会の提供、各種スポーツの体験教室及びスポーツ観戦事業を実施します。

■身近な場所でスポーツを観戦・応援する楽しさを実感する機会の提供【再掲】

区民ひろばやシビックホール等において、国際大会やプロスポーツを皆で観戦・応援し、スポーツの楽しさを共有する機会を提供します。

■トップアスリートとの連携強化

プロスポーツ等団体やトップアスリートと連携してスポーツに関心の低い層への関心を喚起する取組を進めます。また、地域内の交流を促進していくことで地域コミュニティの醸成にも、官民連携のもと取り組んでいきます。

ウ 東京 2020 大会におけるレガシーの継承と活用

東京 2020 大会等の国際大会を通じて醸成されたスポーツの気運、ボランティア精神や国際理解の促進といった大会レガシーを継承するとともに、本計画の理念の実現に向け活用していきます。

主な取組

■東京 2020 大会等のレガシーの継承

年齢や障害の有無に関わらず、だれもがともにスポーツを楽しむことができるよう「する」「見る」「支える」機会の提供と、活動の支援に取り組んでいきます。

また、スポーツを通して多様性への理解を促進することで共生社会の実現に寄与する取組を推進していきます。

■スポーツを通じた地域間交流の機会の提供

姉妹都市提携をしているカイザースラウテルン市（ドイツ）との交流を契機とした少年サッカー大会を通じた事業を実施しています。これまで交流のなかった都市との交流も検討していきます。

エ 人材・組織（町会・地域クラブ）との連携・協働

地域の団体等の多様な主体による連携・協働をもとに、地域スポーツ情報の展開や支えるスポーツの場や機会の拡充、学校施設活用などを通して区民がスポーツに親しむきっかけを充実していきます。

主な取組

■地域団体等と連携したスポーツに関する情報の展開

地域スポーツを普及・振興するため、町会や地域クラブ等の地域団体と連携・協働してスポーツに関する情報を発信していきます。

■地域団体等と連携したスポーツを楽しむ機会の提供

町会や地域クラブ等の地域団体と連携・協働して幅広い年齢層の区民がスポーツを楽しむ機会を提供することで地域コミュニティを醸成していきます。

オ スポーツの魅力を体感する機会の充実

本区の多様なスポーツ資源を活かして、スポーツの魅力を体感する機会を充実していきます。スポーツの魅力を体感することで、区民一人ひとりの生活がより健康で豊かなものとなることを目指して取組を推進していきます。

主な取組

■多様な主体によるスポーツの力の活用

スポーツ団体等や地域クラブ等、本区の多様な主体が、連携・協働してスポーツの魅力を体感する機会を充実する取組を推進していきます。

3. 文化芸術

(1) 文化芸術とは

文化芸術は、「みる（鑑賞・観覧等）」、「する（活動・参加等）」、「ささえる（普及・継承・指導等）」とを分けて定義づけています。なお、文化芸術活動の主体は広く、性別・年齢・障害の有無等によって様々です。「みる」は、展示物や上演・上映される作品を観る・聴くことを指し、基本的には「みる」ために自ら現場に出向く活動を伴うものを指しますが、オンライン視聴等も主体的に「みる」行為にあたり定義の拡大が進んでいます。「する」は、自宅や教室、サークル等での趣味の活動、展示会・公演等の開催や出展・出演等、自ら行う活動を指し、プロから愛好家（個人・団体）まで、レベル別の視点も含まれますが、体験等の一時的なものではなく、継続して行うことが必要となります。「ささえる」は、子ども達や後進への文化芸術の継承やボランティア等による指導育成・運営への参加等を指します。

(2) 現状と課題

① 文化芸術に触れることができる機会の確保

区では、シビックホール等を利用したコンサートや演劇等の鑑賞事業、展示室・ふるさと歴史館・森鷗外記念館を利用した企画展、能楽やかたるたをはじめとした区にゆかりのある文化芸術の体験事業等、様々な文化芸術に触れることができる機会を設けてきました。令和元年度に行った調査によると、過去1年間に出かけて文化芸術を鑑賞した人の割合は81.2%となっており、多くの区民が文化芸術を鑑賞していることがわかります。また、文化芸術活動については、32.4%の区民が行っている状況です。

しかし、現在は新型コロナウイルス感染症の影響により、区民や団体が文化芸術活動や鑑賞を行うことが難しい状況となっています。

文化芸術活動等の停滞を防ぐためにも、オンライン配信等を利用した鑑賞や勉強の機会の確保のほか、感染症対策を徹底した中での事業実施の検討等、これまでと異なるアプローチが求められます。合わせて、だれもが文化芸術に触れることができる社会の実現のため、性別や年齢、障害の有無等の様々な状況に応じて、文化芸術を楽しむ機会を充実させることが必要です。

【結果の比較】過去1年間における文化芸術の鑑賞率

種類	割合
今回調査	81.2%
前回調査	79.5%
国	53.9%
都	72.6%

注)「都」は文化イベントの参加も含む。

【結果の比較】過去1年間における文化芸術の活動率

種類	割合
今回調査	32.4%
前回調査	21.5%
国	25.3%
都	30.1%

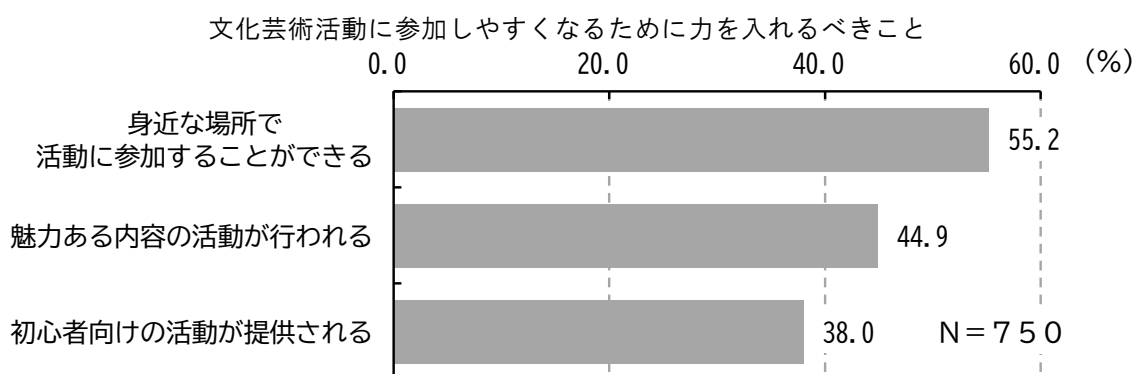
【出典】実態調査

② 文化芸術の次世代を担う人材の育成

長年にわたり主催してきた文京区秋の文化祭や各種文化のつどい・大会などの文化事業は、区民の日頃の成果を発表する場となるだけでなく、区の文化芸術を担っている区内各種文化団体との協働により事業を実施するものであり、各種文化の担い手の育成にも寄与してきました。

しかし、地域活動における文化芸術の担い手の高齢化が進んでいます。これまで地域で育まれてきた文化を次代につなぐためにも、文化の担い手を育成することが喫緊の課題となっています。担い手育成のためには、多くの区民に文化芸術に興味・関心を持ってもらうことが不可欠となります。実態調査によると、区民が文化芸術の活動に参加しやすくなるために、区が力を入れるべきこととして、身近な場所での活動や魅力的な内容の活動のほか、初心者向けの活動を望む声が多く聞かれました。

文化の担い手の育成にあたっては、現在の主な担い手となっている中高年層が、子ども達に文化芸術の楽しさを伝える世代間交流事業の充実を図るほか、学習分野との連携により、文化芸術の「実践の」入り口となる機会を提供することや子ども達のニーズに合った文化芸術プログラムを提供することで、興味・関心を高めることが求められます。また、多くの人々が文化芸術に触れられる機会を創出するため、区と各文化芸術団体が連携して事業を実施するなどの取組が必要です。



【出典】実態調査

③ 文化資源の再発見と活用の推進

近年、積極的に取り組んでいる能楽や競技かるたをテーマとした文化事業等は、長い歳月をかけて育まれてきた区にゆかりのある文化資源について、改めて区民が触れ・知ってもらう機会を創出するとともに、その魅力を区内外に発信していくものです。

文化資源の中には、区民から寄贈された昔の生活用具など、区が現物を保管しているものがあり、今後の寄贈に対応するため、デジタル化や、新たな保管場所の確保などの対応策を考える必要があります。

また、文化資源の効果的な活用に向けて、観光分野をはじめ、他の分野と連携を図り、地域に存在する文化資源の再発見と適切な活用を推進することや、デジタル技術など新しい技術が進展する中で、それらを活用した文化芸術を生み出すという観点も求められます。さらに、文化芸術の発信に向けては、オンライン等の新たな発信方法の活用を検討する必要があります。

④ 文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、長年地域で行われてきた文化芸術イベントを開催することが難しい状況となっています。また、活動機会を設けられないことは、各団体のメンバーの減少につながっていきます。

今後、活動を再開し再び軌道に乗せていくには、資金や労力等がかかり、非常に困難を伴うものと思われます。

区民の文化芸術活動を推進し、区の文化資源を継承していくためには、長期的な視点に基づくとともに、多角的な支援のあり方を検討していく必要があります。



現状と課題のまとめ

- ①文化芸術に触れることができる機会の確保
- ②文化芸術の次世代を担う人材の育成
- ③文化資源の再発見と活用の推進
- ④文化芸術の性質を踏まえた支援の充実

(3) 施策体系の考え方

現状と課題を踏まえると、新型コロナウイルス感染症の影響により、区民や団体における、活動及び鑑賞の機会の確保や、文化芸術の担い手の育成が重要な課題となっています。文化芸術を停滞させることなく、だれもが文化芸術を楽しむことができるようにするとともに、これまで育んできた区の文化を次代につなげることが重要です。また、区には様々な文化資源があるため、それらの効果的な活用と、情報の発信が求められます。

区の文化芸術の振興に向けて、だれもが文化芸術に親しめるように、区民や団体の活動や鑑賞機会を充実させ、文化芸術活動を楽しめる機会を創出するとともに、これからの文化芸術を支える人材の育成支援の充実を図ります。また、区内に存在する様々な文化資源を効果的に活用したまちづくりを推進します。

(4) 施策体系

文化芸術分野の施策体系と、第1章で示した「計画の推進にあたって重視する3つの視点」との整合性は以下のとおりです。

基本方針	施策	人	環境づくり	資源活用
① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり【みる(鑑賞・観覧等)】	ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実		○	
	イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供		○	
	ウ 活動に繋がる契機としての鑑賞機会の提供		○	
② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する(活動・参加等)】	ア 文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実		○	
	イ 市民団体等の活動に対する支援の充実		○	
	ウ 文化芸術活動の場の提供		○	
③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる(普及・継承・指導等)】	ア 次世代を担う層が文化芸術への関心をもつきっかけとなる機会の充実	○		
	イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成	○		
	ウ 多様な主体との連携・協力による文化資源の継承	○	○	○
④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進	ア 文化資源を活用した事業の推進		○	○
	イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信			○
	ウ 地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進		○	○

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

① だれもが、いつでも、どこでも文化芸術を鑑賞できる環境づくり 【みる（鑑賞・観覧等）】

性別、年齢や障害の有無等によらず、また、新型コロナウイルス感染症の影響等も踏まえ、場所や時間等に関わらず文化芸術を鑑賞できることは重要です。そのため、オンライン等も活用しながら、区民のだれもが場所や時間を問わずに、文化芸術を鑑賞できる環境づくりを推進します。

指標	現状値	目標値
1年間のうちに文化芸術を鑑賞したことがある方の割合	81.2% (令和元年度)	検討中
鑑賞や展示の参加者・来場者数	確認中	検討中

ア だれもが文化芸術を身近に鑑賞できる機会の充実

性別、年齢や障害の有無等に関わらず、だれもが文化芸術を身近に鑑賞できるよう、機会の充実を図ります。

主な取組

■文化芸術の鑑賞機会の提供

文京シビックホールや区内施設等の様々な場所で、コンサート等の文化芸術事業を展開することで、だれもが文化芸術を鑑賞できる機会を創出します。

■多様な文化芸術に触れる機会の創出

文化芸術に取り組む方や観る方が、文化芸術の多様性を感じることでできる事業を展開します。

イ 多様な手法による文化芸術の鑑賞機会の提供

従来の文化芸術の鑑賞方法に加え、オンラインをはじめとする多様な手法を用いて鑑賞機会を提供し、区民がいつでもどこでも文化芸術に触れることができるようにします。

主な取組

■大学との連携による文化イベントの実施【再掲】

文化人顕彰事業の一環として行うもので、文京ゆかりの作家の作品を課題作として、朗読コンテストを行います。

■時間や場所を選ばない鑑賞機会の充実

コンサート、演劇、能楽等の文化芸術事業について、オンラインを活用するとともに、区内の様々な場所等の協力を仰ぐことで、ホール等の会場での鑑賞に加え、時間や場所に関わらず文化芸術に触れられる機会を提供します。

ウ 活動に繋がる契機としての鑑賞機会の提供

文化芸術の鑑賞が、文化芸術活動へとつながる契機となる可能性があることを踏まえ、様々な文化芸術の鑑賞機会を提供します。

主な取組

■活動へとつながる文化芸術の鑑賞機会の提供

文京区秋の文化祭、各種つどい・大会事業など、区民活動の発表の機会を設け、だれでも鑑賞できる場とするとともに、区内団体との協働による運営方法とすることで、鑑賞・活動・発表・運営をそれぞれ連動した一体的なものとして実施し、鑑賞から活動等につながる契機とします。

② だれもが文化芸術活動を楽しむことができる機会の創出【する（活動・参加等）】

区民がそれぞれの興味・関心やレベルに応じて文化芸術活動を楽しむことができるよう、だれもが気軽に文化芸術活動を行うことのできる環境づくりを推進します。

指標	現状値	目標値
参加者のアンケート調査における満足度	確認中	検討中
1年間のうちに文化芸術活動をしたことがある方の割合	32.4% (令和元年度)	検討中

ア 文化芸術活動を楽しむことのできる機会の充実

区民がそれぞれの興味・関心に応じて文化芸術活動を楽しむことができる機会の充実を図ります。

主な取組

■大学との連携による文化イベントの実施【再掲】

文化人顕彰事業の一環として行うもので、文京ゆかりの作家の作品を課題作として、朗読コンテストを行います。

■区にゆかりのある文化の体験機会の提供

小倉百人一首競技かるたや宝生流能楽など文京区にゆかりある文化資源の魅力に触れられるよう、講演会や体験イベント等を実施します。

■観客参加型講演の実施

鑑賞に加えてワークショップなどの体験機会を設けることで、観るだけではわからない文化芸術活動の奥深さを体感する機会を創出します。

イ 市民団体等の活動に対する支援の充実

新型コロナウイルス感染症の影響により、区民団体等の活動機会が減少していますが、今後、区の事業や区民の文化芸術活動を感染症流行前の状態に戻していき、さらに発展・継承していくために、多角的な視点からの支援の充実を図ります。

主な取組

■区民の自主的なサークル・団体への活動支援【再掲】

文化・スポーツ・学習活動を行う団体として登録された社会教育関係団体に対して、施設の優先利用や利用料金の減免などを行います。また、文京区生涯学習サークル連絡会によって実施される公開講座、合同学習会等の各種自主学習活動への支援を行います。

ウ 文化芸術活動の場の提供

講習会の実施や発表の機会の提供など、区民が文化芸術活動を行うことができる場を提供します。

主な取組

■文化芸術活動の機会の提供

区民を対象にオペラ公演の開催を目標とする講習会を実施し、卒業公演を開催します。

■文化芸術活動の発表機会の提供

日頃の文化芸術活動の目標となるよう、文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業の実施等により、成果を発表できる場を設けます。

③ 文化芸術を支える人材の育成支援の充実【ささえる（普及・継承・指導等）】

これまで地域で生まれ受け継がれてきた文化や伝統の普及・継承のためには、子ども達を含む次世代の文化芸術を担う人材を育成することが重要です。そのため、次世代を担う層が、文化芸術に親しむことのできる機会を充実させるとともに、地域の多様な主体と連携・協力をしながら、文化芸術の担い手の育成を推進し、貴重な文化資源を次の世代へと継承していきます。

指標	現状値	目標値
地域文化団体会員数	確認中	検討中
事業の未成年参加者の合計数	確認中	検討中

ア 次世代を担う層が文化芸術への関心を持つきっかけとなる機会の充実

文化芸術を鑑賞する機会の充実を図るとともに、子どもたちを対象とした文化芸術の体験プログラムの実施など、次世代を担う層が、文化芸術へ関心を持つきっかけとなる機会を充実します。

主な取組

■文化芸術の鑑賞及び発表の機会の提供

伝統文化親子教室で学んだ子ども達の発表の場や、区民が伝統文化を鑑賞する機会として、文京区秋の文化祭、各種つどい・大会事業等を実施します。

■関係団体との協力による文化芸術プログラムの実施

能やかると等区内の貴重な文化資源について、子どもたちに興味を持ってもらえるよう、区内関係団体と連携し、「鑑賞」や「体験」を交えたプログラムを実施します。

イ 文化芸術を支え、継承し、伝える担い手の育成

文京区において、これまで育まれてきた文化芸術を次の世代に継承するため、文化芸術を支え、伝える担い手を育成します。

主な取組

■文化芸術事業の協働

区内文化芸術団体と協働して文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業などを実施することで、活動者の意見を取り入れた継続的で安定的な運営を図るとともに、運営ノウハウの継承を通じて文化芸術を支え、伝える担い手の育成を図ります。

■関係団体との協力による文化芸術プログラムの実施【再掲】

子どもたちに区内の貴重な文化資源である能に興味を持ってもらえるよう、公益社団法人宝生会と連携し、「鑑賞」と「体験」を交えた能に係るプログラムを実施します。

ウ 多様な主体との連携・協力による文化資源の継承

区内には貴重な文化資源が数多く存在しますが、そうした文化資源を守り、将来に継承していくために、区民の文化芸術の鑑賞機会を充実や体験イベントの実施など、区民の区の文化資源への関心を喚起する取組みを推進します。取組みの推進にあたっては、多様な主体と連携・協力します。

主な取組

■文化芸術事業の継続実施による継承

長年にわたり区内で育まれてきた文化芸術活動を継承していくため、区内の様々な文化団体と協働し、文京区秋の文化祭や各種つどい・大会事業、企画展、鑑賞会等を実施します。

④ 地域の資源を活かしたまちづくりの推進

区の様々な文化資源を観光や産業など他分野と連携して活用することにより、相乗効果が期待されるため、文化芸術と他分野との連携を図り、地域の特色ある文化資源の魅力を区内外に積極的に発信するとともに、地域の文化資源を活用したまちづくりを推進します。

指標	現状値	目標値
区の各文化資源の認知度	確認中	検討中
文化資源を活用した事業の数	確認中	検討中

ア 文化資源を活用した事業の推進

区の魅力をアピールするため、区内の様々な魅力ある文化資源を活用した事業を推進します。

主な取組

■文化資源を体験する機会の充実

能やかるとを始めた地域で長年にわたり育まれてきた区に縁のある貴重な文化資源について、関係団体との協働により、その魅力を発信するとともに、より多くの区民に興味関心を持ってもらえるように、その魅力を実際に体験する機会の充実を図ります。

■他分野との連携による文化資源の発信

区に縁の文化資源を、分野の枠を越えて、区内外の様々な機関や主体と連携を図り発信していきます。

イ 特色ある文化資源の魅力の確認や再発見とその発信

区内に存在する様々な文化資源の魅力を発信することは、区の魅力を広くアピールすることにつながります。また、区の歴史について知る機会をつくることは、現在のまちづくりを考えるきっかけとなります。そのため、区内の文化資源に関する資料の収集や調査研究を行い、その文化資源が持つ魅力を確認、再発見するとともに、その魅力を多様な形式で発信します。

主な取組

■文京ゆかりの文化人顕彰の実施

森鷗外記念館をはじめ、区に足跡を残した文化人を顕彰し、多様な文化的資源の継承、発掘及び情報発信を進めます。また、年度ごとに生誕没後などの記念の年にあたる文化人を中心に、朗読コンテスト、講演会等の顕彰事業を実施します。

■区の歴史、文化に関する調査研究の実施

文京ふるさと歴史館において区の歴史や文化、ゆかりのある人物等をテーマに、資料収集、調査研究を行い、その成果を特別展等により公表します。

■文の京ミュージアムネットワークの構築

区内博物館、美術館、庭園等、文化・芸術に関する施設が「文の京ミュージアムネットワーク」（文京ミューズネット）として連携し、各施設の特色や個性を発信します。

ウ 地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりの推進

区内の文化資源を効果的に活用し、地域団体や他分野の団体等、多様な主体と連携したまちづくりを推進します。

主な取組

■文化資源を活用した地域との連携

区に縁のある貴重な文化資源を、地域活動のイベント等と連携して発信していくことで、地域の方及び来場者に文化資源をより身近に感じてもらい、地域に根付いた文化資源の発信を図ります。

■文化的な繋がりを通じた連携及び発信

区に縁のある歴史や文化を通じて交流をしている関係自治体等と連携を図り、交流事業を展開することで、区に縁のある貴重な文化資源を区内外に発信していきます。

4. 観光

(1) 観光とは

観光とは、余暇時間の中で、「触れ合い」「学び」「遊ぶ」ことなどを目的とするもので、時代とともに多様化しています。観光は、旅先の風景や観光スポット等を見るだけでなく、教育やスポーツ、健康等のテーマ性の強い体験型の新しい旅行も、観光のひとつのかたちと考えます。

本区における観光振興は、自然や社会環境と共生すること等に留意し、様々な観光のかたちを通じてだれもが気軽に楽しめ、区民と来訪者の交流を生み出し、地域に活力を与え、まちに対する愛着や誇りを醸成することをねらいとします。

(2) 現状と課題

① 環境変化に柔軟に対応した新たな観光スタイルの確立

本区はこれまで、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を見据え増加が見込まれる外国人観光客の受入環境を整備するため、ボランティアによる観光案内や日本文化体験等のインバウンド事業を推進してきました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、外国人観光客は激減し、国内においても外出自粛制限等により、本区の観光事業も深刻な影響を受けています。

インバウンド（訪日外国人客）の回復の見通しが立たない中、感染リスクを抑え、だれもが安全・安心に観光を楽しむことができる受け入れ体制の整備が求められます。

また、リアルとヴァーチャルを融合させた新しい観光スタイルの取組をはじめ、マイクロツーリズムの視点を取り入れた地域資源の開発や磨き上げを推進し、訪れる側も受け入れる側も楽しめ、区内周遊を高める観光サービスの充実を図る必要があります。

今後の観光需要の状況を見極めつつ、インバウンドの回復を見据えた取組も段階的に進めていくことが重要です。

② 観光資源の活用による新たな魅力の創出

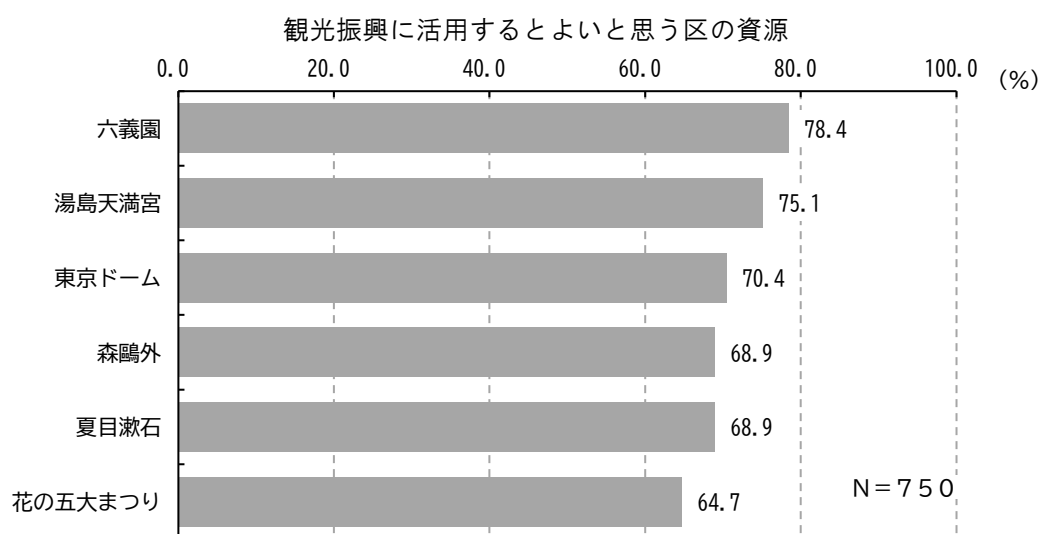
本区には、特別名勝である庭園や由緒ある寺社、史跡等が数多くあるほか、東京ドームや本区のランドマークでもあるシビックセンター等、豊富な観光資源に恵まれています。

実態調査では、観光振興に活用するとよいと思う区の資源として、「六義園」（約8割）、「湯島天満宮」（7割強）、「東京ドーム」、「森鷗外」・「夏目漱石」（ともに約7割）、「花の五大まつり」（6割強）が上位に挙げられており、文化・スポーツ分野等との連携が期待されています。

今後は、こうした資源のさらなる活用や、文化・芸術、スポーツ等、他分野との融合による新たな観光ルートの提案、ストーリー性の付加等により、その価値を高めていく必要があります。

また、本区には、来訪者の知的好奇心を満たし、気軽に本区の魅力に触れられるガイドツアーが充実しています。

引き続き、国内外からの来訪者をおもてなしの心で迎えられるよう、多様な人材による観光ボランティアの育成を図るとともに、オンラインツアーやガイドツアーの動画配信等、ボランティアの新たな活躍の場を提供することが求められます。



【出典】実態調査

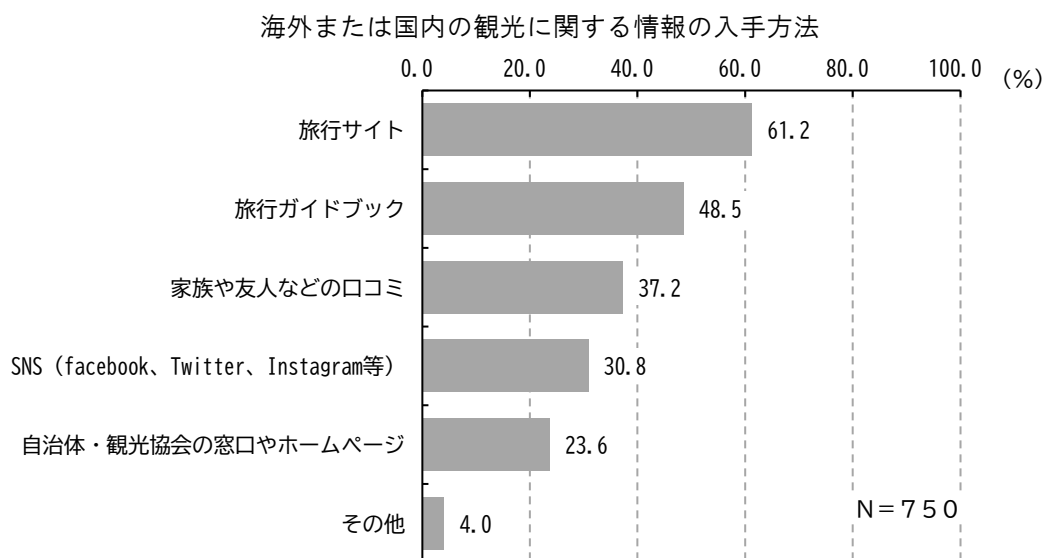
③ 区内観光の情報の収集・活用による来訪促進

本区は、区内の観光情報や飲食店を紹介する観光ガイドやグルメマップを作成し、形状の見直しや掲載内容の充実化等により利便性の向上に努めてきました。また、WEB版と多言語版も作成し、若者や外国人等への対応も推進しています。

実態調査では、国内外の観光情報の入手方法として、「旅行サイト」が6割を超え最も高く、ICTを活用した情報収集が浸透していることがうかがえます。今後さらにICT活用が深化すると想定されることから、区内の観光情報の一元化を進め、いつでも・どこでも情報を入手できるようなプラットフォームの構築が求められます。また、SNS、YouTube等は、情報発信・共有のツールとして若者や外国人の間で主流になっており、口コミを誘発することで注目されています。今後は、こうしたツールを積極的に活用し、区内在住・在学の外国人等を取り込んだ新たな視点による情報発信を展開していく必要があります。

一方、実態調査では、「旅行サイト」に次ぐ観光情報の入手方法として、「旅行ガイドブック」(5割弱)、「家族や友人などの口コミ」(4割弱)も上位に挙がっていることから、引き続き手軽に観光情報を入手できる紙媒体による情報発信も必要です。

区内の旬な情報や来訪者の好奇心を喚起する情報等を収集しつつ、様々な情報発信ツールを使い分けながら、だれもが気軽に情報を享受できる環境を整備し、本区への関心や認知度を高め、来訪を促進することが重要です。



【出典】実態調査

④ 交流・連携・協力による新たな観光事業の推進

本区は、国内 13 自治体と協定等を締結するとともに、海外の姉妹都市・友好都市等との交流を進め、国際交流フェスタや国内交流事業等を通じ、互いの地域の魅力を高め合い相互理解の推進に取り組んできました。

引き続き観光交流交歓やイベント等を通じ、本区との関係性を一層深めていくことが必要です。

また、スポーツや文化・芸術等、他分野との連携・協力を促進し、観光と他分野を結び付けた新たな事業展開を推進していくことも重要です。

区民と来訪者等の交流機会を増やし、関係人口や交流人口を創出することにより、両者の「文の京」への愛着を育み、消費拡大や再来訪につなげる必要があります。



現状と課題のまとめ

- ①環境変化に柔軟に対応した新たな観光スタイルの確立
- ②観光資源の活用による新たな魅力の創出
- ③区内観光の情報の収集・活用による来訪促進
- ④交流・連携・協力による新たな観光事業の推進

(3) 施策体系の考え方

区民の観光への理解と協力を得ながら、だれもが、いつでも、どこでも、文の京を楽しみ、愛着を感じ、満足度を高めることができる観光のまちづくりを進めます。

また、区独自の観光資源を新たに発見し、育み、活かしつつ、区民と来訪者等との交流を深める中で来訪者の経験価値を高め、何度でも訪れたいくなる、持続可能な関係性を構築します。

さらに、新型コロナウイルスをきっかけに改めて求められている安全・安心な観光のあり方のさらなる追求と、区内観光の振興との両立を図り、リアルとヴァーチャルを活用したハイブリッド型の観光スタイルを確立します。

(4) 施策体系

観光分野の施策体系と、第1章で示した「計画の推進にあたって重視する3つの視点」との整合性は以下のとおりです。

基本方針	施策	人	環境づくり	資源活用
① 区内まるごと回遊の促進	ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出	○	○	○
	イ マイクロツーリズムの推進による回遊性の向上	○	○	○
② いつでも・どこでも。世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有	ア 観光情報の収集・発信力充実と共有促進	○	○	
	イ 情報発信環境の整備		○	
③ つながりから生まれる観光の推進	ア 他分野(文化・芸術、スポーツ等)との融合	○		○
	イ 国内外の協定締結自治体や近隣自治体等との連携・協力	○		○
④ 何度でも訪れたいくなるおもてなしの環境整備	ア 観光客の受入基盤整備		○	○
	イ 多様な人材の育成・活用	○		○

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

① 区内まるごと回遊の促進

本区の多彩な観光資源を継承し、磨き上げ、地域の魅力を高めます。また、区民や来訪者、外国人等の様々な視点や他分野との連携、ICT を活用した観光促進等により、独自の観光資源を創出し、育み、持続可能な観光を推進します。

指標	現状値	目標値
文京区の他者推奨意向	84.1% (令和元年度)	検討中

注) 現状値は、「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査」(令和元年)での「あなたは、文京区を訪れた観光客(国内外問わず)に対して、文京区のまちを紹介したいと思いませんか。」という設問への「紹介したい」と「どちらかといえば紹介したい」の合計値。

ア 観光資源の磨き上げと新たな魅力の創出

本区の新たな魅力を創出し、区民や来訪者がリアルやヴァーチャル等の参加方法について選択可能な取組を推進します。また、従来から観光振興において活用してきた名所・旧跡、文人や花の五大まつり等の本区が誇る多彩な観光資源に触れるための事業を様々な主体とともに実施することで、区内観光に新たな一面を見出し、より一層の誘客促進につなげます。

主な取組

■区内の魅力を発見するためのイベントの開催

本区への来訪意欲の向上と新たな観光ニーズを掘り起こすため、区内にある観光資源を新たな目線で発見し磨き上げ、誘客につながるイベントを開催します。

■観光資源の多面的なPR

新たな魅力創出を図るため、従来とは異なる角度から区内の観光資源を、PR します。

イ マイクロツーリズムの推進による回遊性の向上

区内に点在する観光資源・拠点をエリアや分野等の視点でつなぐことにより、来訪者の回遊性を高め、新たな魅力の創出を図ります。エリア内の複数の施設とコミュニティバス、ガイドツアー等を一体的・有機的に結びつけることで、観光客の誘引を促し、地域の活性化につなげます。

主な取組

■多様なニーズに対応した区内周遊ルートの提案

来訪者一人ひとりのニーズに対応するため、Bーぐるを活用して効率的に名所を巡るルート、文化の香りをじっくり味わうルート、徒歩・自転車での周遊による健康増進・ウェルネスルート等を検討します。

② いつでも・どこでも。世界をつなぐ観光情報・魅力の収集・発信・共有

本区の情報を多様な媒体を通じて国内外に発信し、旅マエ・旅ナカ・旅アトのいつでも、どこからでも手軽に必要な情報を入手できる環境を整え、本区に対する関心や来訪意欲を高めます。また、区民や来訪者、外国人等が、区の観光資源等に関する情報を共有し、自発的な情報発信を促すことで、区の観光情報の発信力を底上げします。

指標	現状値	目標値
文京区観光協会のホームページの新規ユーザー	44,115 件 (令和元年度)	検討中

ア 観光情報の収集・発信力充実と共有促進

様々な人に向けて、多彩な情報を発信するための環境を整えます。区及び観光協会自らも積極的に観光情報の収集を行い、観光前（旅マエ）のお薦めスポット・グルメ等の紹介、観光中（旅ナカ）の来訪者の情報収集への対応等への充実化を図ります。また、観光後（旅アト）の訪れた人によるスポットへの感想やおすすめ情報の発信・共有等、旅マエ・旅ナカ・旅アト情報の拡充を図ります。同時に、区民や来訪者、外部の人たちからの SNS などを通じた情報共有の促進、拡散に向けた取組にも注力します。

主な取組

■各主体と連携した観光情報の収集・発信力の充実

区全体の観光情報の収集・発信力向上のため、区観光協会のホームページのコンテンツ充実・SNS の活用促進、Google マイビジネスへの区内事業者の対応力の向上等を図ります。

■区民や来訪者等とのコミュニケーションの充実

若い世代や外国人の来訪や誘客につなげるために、旅マエ・旅ナカ・旅アトのいつでも入手可能な情報発信に取り組むとともに、情報の共有・拡散に向けた働きかけを行います。

イ 情報発信環境の整備

区内の観光情報の集約化・充実化を進めるとともに、インターネット上で区内の観光施設等の情報が検索されやすくなるように働きかけを行います。また、観光ガイドマップ・グルメマップのWEB化・多言語化、及び観光インフォメーションでの情報発信等をさらに充実させ、リアルとヴァーチャルの両面から、区内観光の情報発信力を強化します。

主な取組

■観光情報の多言語化・WEB化、観光インフォメーションの機能強化

正確かつ最新の情報提供を可能とするため、観光情報の多言語化やWEB化を推進するとともに、文京区観光インフォメーションでの情報収集・サービス提供機能を強化します。

③ つながりから生まれる観光の推進

これまで交流機会が少なかったスポーツや文化・芸術等、他分野との関係性を深めるとともに、国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等とより一層の交流を促進していくことにより、横断的な取組を推進していきます。様々な連携・協力によりもたらされる、これまでとは異なる視点や発想を観光施策に活かし、新しい「文の京」の観光につなげます。

指標	現状値	目標値
協定等締結自治体との連携実績	57件 (令和元年度)	検討中

ア 他分野（スポーツ、文化・芸術等）との融合

観光×スポーツ、観光×文化・芸術、観光×サブカルチャー等の視点からの事業展開により、従来の事業展開では区内観光に関わりが薄かった潜在的な来訪者層との接点を持ち、新たな来訪者の獲得につなげます。

主な取組

■他分野との連携・融合による事業展開

新規来訪者を創出に向け、スポーツと連携した健康増進や文化と連携した知的好奇心を喚起する等のテーマ別での観光提案、アニメやゲーム等の聖地巡礼等、潜在的な来訪者層をターゲットにした事業を展開します。

イ 国内外の協定締結自治体や近隣自治体等との連携・協力

国内外の協定等締結自治体や近隣自治体等と連携・協力して、食や文化等を通じた交流を図ることで、区民と来訪者とのつながりや区内観光へのきっかけを提供するとともに、交流人口の増加を図ります。

主な取組

■広域連携・協働事業の実施

他自治体や企業・団体等と文化、観光、商業などに関する交流や様々なテーマでのイベント等を実施します。

④ 何度でも訪れたいくなるおもてなしの環境整備

だれもが安心して快適に区内観光を楽しめる受入環境を整備します。また、多様な人材によるボランティアを育成し、おもてなしの心を醸成することで、区民はもとより国内外からの来訪者が本区に愛着を感じ、再訪したくなる、受け入れ体制を整えます。

指標	現状値	目標値
「だれもが観光に訪れたいくなるまちを支える仕組みをつくること」への満足度	区民：38.9% 事業参加者：76.0% (令和元年度)	区民：検討中 事業参加者：検討中

注) 現状値は、「文京区アカデミー推進計画に関する実態調査」(令和元年)での「だれもが観光に訪れたいくなるまちを支える仕組みをつくること」への満足度に関する設問への「満足である」と「どちらかといえば満足である」の合計値。

ア 観光客の受入基盤整備

ICTの進展に対応するために無料公衆無線LANを整備するとともに、バリアフリー化の推進、コミュニティバスの運行や自転車シェアリング事業等の実施により、来訪者の利便性向上を図り、だれもが安心して快適に区内観光を楽しめる基盤を整えます。

主な取組

■旅行者の利便性向上を図る事業展開

現地での情報収集・発信や利便性向上のため、無料公衆無線LANの整備やキャッシュレス化等の旅行者が安心して区内観光できる環境整備のための事業を検討します。

イ 多様な人材の育成・活用

多様化する来訪者や今後回復が見込まれる外国人観光客のニーズにきめ細やかに対応するため、区内在住・在学の外国人等、多様な人材によるボランティアガイドの育成・活用も推進し、日本語とともに外国語による情報発信や観光案内等の強化を図ります。

主な取組

■多様な観光ニーズに対応できる観光ガイドの養成

国内外の観光客に本区の魅力を伝え、関心を高めてもらえるよう、本区の歴史や文化、観光等に精通したボランティアの観光ガイドを養成します。

5. 国内・国際交流

(1) 国内・国際交流とは

都市交流は「国内交流」と「国際交流」とを分けて定義づけます。「国内交流」は、文京区と協定締結している自治体を中心に住民・地域団体等と、文化やスポーツ、自然体験等の幅広い分野の活動や食や特産品を通じて交流を行うことを指し、住民相互の理解促進、双方の地域経済の活性化、区にはない自然や文化を体験・経験する機会や区の魅力を再発見する機会創出等につなげることをねらいとします。「国際交流」は、姉妹都市・友好都市との交流を含め、外国人と区や団体が行うイベントや事業等を通じて区民と交流を行うことを指し、異国文化の理解促進、双方の地域社会の活性化、国際化の進展、在住・在学外国人との交流促進などにつなげることをねらいとします。

(2) 現状と課題

① ICT を活用した非接触型交流の必要性

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、これまで対面で行われてきた人と人との交流や、多くの人が集まるイベント開催が難しくなっており、ICT を活用した非接触型の交流が注目されています。

対面での交流と ICT を活用した交流の双方の強みを活かし、協定締結自治体と区民や在住・在学外国人を含めた住民同士の交流をこれまで以上に充実させることが必要です。

今後は、国内交流・国際交流のどちらにも利用できるツールである ICT を活用し、オンライン会議に限らず、SNS を活用した取組にも着目し、人と人とのつながりを創出・発展させることが重要です。

② 区民ニーズの把握と興味・関心に応じた取組の充実

区民の国際交流を促進するため、ホームステイ事業及び国際交流フェスタや留学生との交流会、英語観光ツアー等を実施してきました。

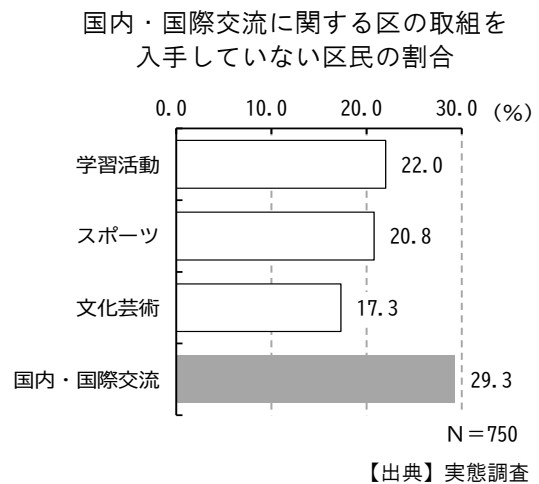
既存の事業における参加者は減少しているものもあり、区民および区内在住・在学外国人のニーズを改めて把握し、実施方法等を検討する必要があります。

特に、区内在住・在学外国人のニーズをより具体的に把握するためには、外国人を対象とした定期的なアンケート調査や対面またはオンラインによるヒアリング調査など、意見を収集する取組や、外国人自らが気軽に意見を発信しやすい場や機会を設けることが重要です。

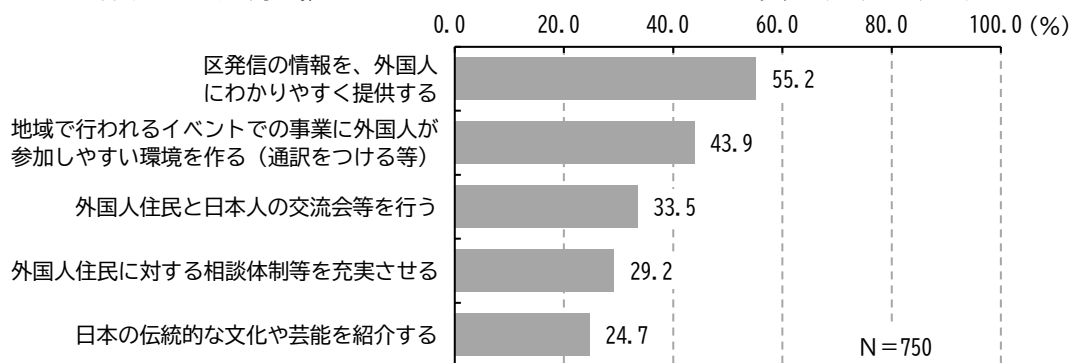
さらに、実態調査によると、国内・国際交流に関する区の取組を入手していない

区民は 29.3%と他分野よりも高い一方で、外国人との交流の推進に向けて区がより力を入れるべき取組は「区発信の情報を、外国人にわかりやすく提供する」が 55.2%となっており、情報発信にも課題があることがうかがえます。

より多くの人々が参加し、異文化理解や価値観を広げる機会につながるように、ニーズを踏まえ、興味・関心に応じた取組とその情報提供を充実することが必要です。



外国人との交流の推進に向けて区がより力を入れるべき取組（上位5項目）



③ 体験から継続までを見据えた連続性の重視

これまで協定を結んでいる国内の自治体や海外の姉妹都市・友好都市の人々と、区民が交流するきっかけをつくってきました。交流イベント等の取組では一定の参加者が集まり、相互の交流を図る機会となっていましたが、一時的なもので終わってしまう傾向にあります。

区が行う交流イベントの企画にあたっては、単発的に終わらないよう、継続性を持たせる必要があります。特に、最近若年層に馴染みのある SNS は、発信力や更新のしやすさに優れていることから、例えば参加者に SNS を利用して日本の文化や魅力の発信・拡散を促し、新たな交流機会のきっかけづくりにつなげることなどが考えられます。また、たとえ遠方であっても本区と継続的に関心や関わりを持つ「関係人口」の創出を目指す必要があります、そのためにも SNS を活用した情報発信の充実が重要です。

④ 多分野との連携による事業展開を見据えた交流

住民主体の交流を促進するため、スポーツ・自然体験等を通じた住民同士の交流活動に対する補助や、交流自治体の食材を活用する区内飲食店への補助を行ってきました。

国内交流自治体・国際交流都市との関わりについては、今後も文化や観光など、多くの分野で交流事業を展開するために、庁内の関係各課と連携を図ることにより、国内・国際交流のさらなる促進が期待されます。

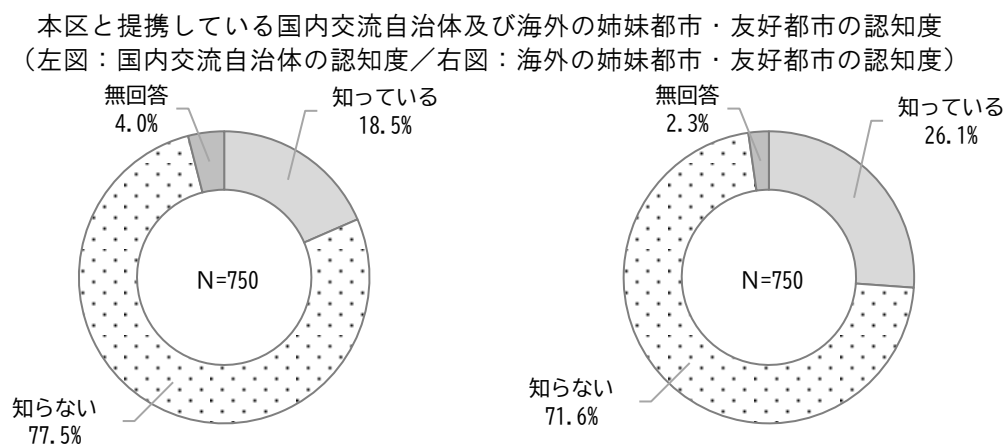
交流自治体とのオンラインでの交流をすることにより、その地域の文化や価値観を学び、都市交流の魅力を幅広く様々な方法で発信し、区民との交流の機会につなげることで、参加者が継続的に交流を図ることが重要です。

⑤ 国内交流自治体・国際交流都市の認知度向上

区では、国内の13自治体、国外の3都市と協定等を締結しています。実態調査によると、新潟県魚沼市や熊本県熊本市など、区が協定等を締結している国内の自治体を一つでも知っている区民は18.5%、カイザースラウテルン市（ドイツ）またはイスタンブール市ベイオウル区（トルコ）と区が提携していることを知っている区民は26.1%となっており、区民の認知度は、高いとは言えません。

交流自治体等の魅力や文化を定期的に集約して発信する取組や、物産展、フェアやマーケット等のイベント開催などを区の魅力の一つとして区民に認識してもらい、地域愛着や定住意向の醸成につなげていくためにも、広く認知度を高める取組が必要です。

また、認知度を高めることで、交流自治体への訪問意欲の向上と関心喚起、さらには区内の関係団体や民間企業が自ら交流を深めるきっかけづくりにもつながる取組が重要です。



注) 実態調査の実施時期時点(令和元年9月)は、カイザースラウテルン市(ドイツ)、イスタンブール市ベイオウル区(トルコ)の2つの都市と提携していましたが、令和元年10月に北京市通州区と提携しました。

【出典】実態調査

国内・海外	都市・自治体
国内交流自治体	岩手県盛岡市、茨城県石岡市、東京都新宿区 新潟県魚沼市、石川県金沢市、山梨県甲州市、 島根県津和野町、広島県福山市、福岡県北九州市 熊本県、熊本県熊本市、熊本県玉名市、熊本県上天草市、
姉妹都市 友好都市	カイザースラウテルン市（ドイツ） イスタンブール市ベイオウル区（トルコ） 北京市通州区（中華人民共和国）

⑥ 外国人との交流機会の充実

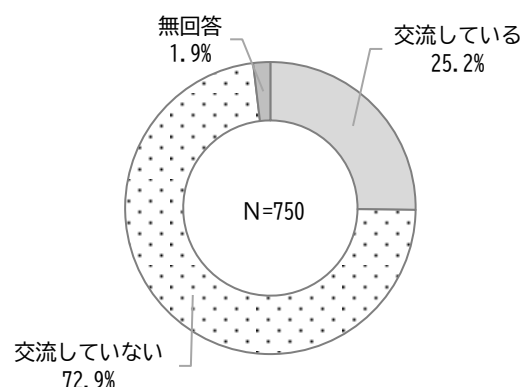
実態調査によると、外国人（訪日・在住問わず）と交流している区民は 25.2% となっており、およそ 4 人に 1 人が交流していることがわかります。

区では、これまで文京区紹介映像や区公式 PR 動画、行政文書等の多言語化を図り、英語、中国語、韓国・朝鮮語（ハングル）など 9 か国語に対応してきました。

今後は、近年、注目されている普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」の周知・活用を推進する必要があります。

日本人と外国人の交流の機会を増やす取組を充実させることや、区内在住・在学外国人が自らの力を発揮できるような場の提供を増やす取組が重要です。

区内で外国人（訪日・在住問わず）と交流している区民の割合



【出典】実態調査

現状と課題のまとめ

- ① ICT を活用した非接触型交流の必要性
- ② 区民ニーズの把握と興味・関心に応じた取組の充実
- ③ 体験から継続までを見据えた連続性の重視
- ④ 多分野との連携による事業展開を見据えた交流
- ⑤ 国内交流自治体・国際交流都市の認知度向上
- ⑥ 外国人との交流機会の充実

(3) 施策体系の考え方

現状と課題を踏まえると、国内交流と国際交流とで類似している事項もあれば、異なる事項もあることがわかりました。特に、異文化理解という点では、国際理解を育むためには外国人との交流が不可欠であり、国内交流では得られにくいものと考えられます。また、区内在住・在学の外国人が、住みやすく、親しみやすいと感じられるまちづくりを展開していくことも重要です。

国内交流と国際交流の推進に向けて、協定等を締結している国内交流自治体と、姉妹都市・友好都市を提携している国際交流都市の認知度を高める取組や、日本人と外国人の交流を促進する取組、様々な分野と連携した取組等の充実を図り、国内・国際交流自治体又は本区に関心や関わりを持つ「関係人口」の創出をねらいます。

また、区内在住・在学の外国人が日本人とともに安心して暮らすことができ、さらに、地域に参画していきいきと活躍できるような環境づくりを充実します。

(4) 施策体系

国内・国際交流分野の施策体系と、第1章で示した「計画の推進にあたって重視する3つの視点」との整合性は以下のとおりです。

基本方針	施策	人	環境づくり	資源活用
① 国内交流自治体との交流促進と相互発展	ア 交流自治体の魅力発信とPRの充実	○		○
	イ 交流自治体との交流の活性化		○	○
	ウ 横断的な交流事業の展開	○		○
② 国際理解を育み定着に向けた機会づくり	ア 海外都市との交流の活性化	○	○	
	イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有	○		○
	ウ 横断的な交流事業の展開	○		○
③ 外国人が活躍できる環境づくり	ア 多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実	○	○	
	イ 外国人の活躍できる場の提供支援	○		○

(5) 基本方針ごとの具体的な取組

① 国内交流自治体との交流促進と相互発展

本区では、歴史的・文化的ゆかりや共通点等がある国内の自治体と各種協定等を結び、住民間の交流により相互に魅力を高め合い、ともに発展・成長していくことを目指しています。

各協定自治体の住民と区民の交流を促進するため、ICT を活用してその自治体の魅力を発信し周知を図り、交流機会をより一層増やすとともに、関係各課との連携を通じて交流機会のさらなる充実を図ります。また、各協定自治体と本区のみでの交流に留まらず、各協定自治体間の連携や交流も促し、相互に地域の活性化を図ります。

指標	現状値	目標値
国内交流自治体の認知度	18.5% (令和元年度)	検討中

ア 交流自治体の魅力発信と PR の充実

区では、国内の 13 自治体と協定等を締結しており、さらなる交流を活性化するためには、区民の認知度を高めることが必要です。

国内交流自治体を周知するイベントを開催し、その自治体を持つ魅力や特徴を紹介するとともに、ホームページや SNS など、様々な方法で PR の充実を図ります。

主な取組

■国内交流自治体の魅力を紹介する機会の創出

国内交流自治体の魅力を紹介するため、文京花の五大まつり等の場における物産展の開催や本区のホームページ、SNS 等を活用します。

また、区民にとって身近な食をテーマにした事業を通して、より多くの区民に交流自治体の魅力を発信し、関係各課と連携を図ることにより、継続的な交流につなげます。

■国内交流自治体が主催する文京区の魅力発信や区民との交流イベントの支援

国内交流自治体の本区の魅力を発信したり、区民との交流を活性化したりするイベントや取組を支援します。

イ 交流自治体との交流の活性化

国内交流自治体との交流は、区民が文京区の良さを知り、人と人のつながりを創出または強固にするきっかけとなることに加えて、お互いの地域が保有する人材や施設等の資源を共有することも期待できることから、より一層交流の促進を図ることが重要です。

食やお祭りなど、区民にとって親しみやすく、かつ交流自治体の特徴がわかりやすく伝わるものをテーマに、交流自治体にゆかりのある内容のイベントを開催し、従来からの対面形式に加えて、ICT を活用したオンライン形式も導入し、さらなる交流の活性化を図ります。

さらに、昨今の大地震や大雨などの自然災害の発生状況を踏まえると、もしも本区や国内交流自治体が被害を受けた場合には、相互に助け合う関係を築いておくことも必要です。そのため、本区と国内交流自治体との交流はもちろん、国内交流自治体間の交流も支援します。

主な取組

■国内交流自治体の資源や魅力に触れる交流機会の充実

国内交流自治体にはそれぞれの地域独自の自然や環境、人材、施設などの資源があります。これらの資源を活かしながら、地域の魅力に触れることができる機会を創ります。また、その交流機会の創出にあたっては、対面での接触型交流と、オンラインによる非接触型交流とを併用して充実します。

■防災等を通じた国内交流自治体との連携

自然災害発生時に相互に協力応援する関係性を発揮するためにも、平時の連携が重要です。また、文京区と交流自治体間の協力を留まらず、交流自治体どうしの連携も支援します。

■国内交流自治体間の交流支援

本区と国内交流自治体との関係がより一層強固なものとなるように、国内交流自治体の本区と連携して主催するイベントなどに、別の国内交流自治体も参画する機会を創るなど、国内交流自治体間の交流を支援します。

ウ 横断的な交流事業の展開

実態調査により、国内交流の促進に向けて区がより力を入れるべき取組として、防災、歴史・文化、観光といった様々な分野との連携が期待されていることがわかっています。

年代やライフスタイル、興味・関心などに違いがあっても、多様な区民に交流のきっかけをつくり、継続的な交流につなぐことができるように、分野横断的な取組を充実します。

主な取組

■地域の伝統文化や慣習の学びを通じた交流機会の充実

国内交流自治体の伝統文化や歴史、風習に触れ、学ぶことは、その土地の理解につながるとともに、国内交流自治体における住民との交流や訪問意欲の向上が期待できます。そのため、多様な区民の興味・関心に応じた国内交流自治体に対する学びをきっかけに、交流を促す取組を行います。

■防災等を通じた国内交流自治体との連携【再掲】

自然災害発生時に相互に協力応援する関係性を発揮するためにも、平時の連携が重要です。また、文京区と交流自治体間の協力を留まらず、交流自治体どうしの連携も支援します。

② 国際理解を育み定着に向けた機会づくり

本区では、世界平和と相互理解並びに両国の友好関係の促進に寄与することを目的に、カイザースラウテルン市(ドイツ)、イスタンブール市ベイオウル区(トルコ)、北京市通州区(中国)と姉妹都市・友好都市を提携しています。また、その他海外各都市との間で訪問団の派遣・受入れ、文化交流等を行っています。

このような海外各都市との国際交流をさらに充実させるため、区民および区内在住・在学外国人の興味・関心に応じた取組を実施します。

さらに、区民に対して国際交流のきっかけをつくるだけではなく、他者や異文化理解の促進と定着を図るため、体験から定期的な活動の継続までの連続性を持たせるための情報発信や関係各課との連携による取組を実施します。

指標	現状値	目標値
外国人と交流している区民の割合	25.2% (令和元年度)	検討中
海外の姉妹都市・友好都市の認知度	26.1% (令和元年度)	検討中

ア 海外都市との交流の活性化

新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、区が提携している海外の姉妹都市・友好都市との対面での交流は制限されました。

今後、ウィズコロナでの環境下であっても区民の海外都市との交流が途絶えないように、すでに始めているオンラインによる非接触型の交流を継続しつつ、アフターコロナを見据えた交流機会の基盤づくりや、姉妹都市・友好都市についての区民の認知度向上等に力を入れて取り組めます。

主な取組

■姉妹都市・友好都市との交流機会の充実

本区の姉妹都市・友好都市との交流を活性化するため、従来から取り組んできた中高生の派遣・受け入れをはじめとする対面での接触型交流機会に加え、オンラインによる非接触型交流機会の双方の創出を図ります。

■姉妹都市・友好都市の周知

姉妹都市・友好都市の魅力を発信し、区民の認知度を高めるため、本区のホームページで姉妹都市・友好都市に関する情報を発信します。

イ 国際理解に向けた情報の収集・発信・共有

区民および区内在住・在学の外国人について、国際理解をより一層定着するための取組ニーズを把握し、国際交流への関心喚起や実行促進、そして継続的な交流につながる情報の発信を強化します。また、区内在住・在学の外国人が気軽に意見や考えを発信できる場づくりを図ります。

主な取組

■国際理解の定着に向けた効果的な取組ニーズの把握

国際理解の定着に向けて効果的な取組を検討するため、区内在住・在学の外国人を対象とした意見収集の機会をつくります。

■国際交流の関心・関わり度合いを踏まえた情報の発信

海外都市や外国人に対して無関心な人と、海外旅行を趣味としている人とは、国際交流を促すために効果的な情報は異なると考えられます。様々な国際交流の関心・関わり度合いに応じた国際交流の促進に向けた情報を発信します。

■国際理解を図るための取組

本区の地域活動団体等と連携し、区民及び区内在住・在学の外国人に対して、海外の文化や芸術について発信し、国際理解を深める取組を行います。

ウ 横断的な交流事業の展開

国内交流と同様に、年代やライフスタイル、人種や国籍、興味・関心などに違いがあっても、多様な区民に交流のきっかけをつくり、継続的な交流につながることができるように、分野横断的な取組を充実します。

主な取組

■学びを通じた国際交流の促進

教育機関や学習機会の場において、語学や外国の文化、歴史等の学びを通して国際理解を深め、多様な区民に国際交流の関心喚起を促す取組を行います。

③ 外国人が活躍できる環境づくり

本区には1万人を超える外国人が居住しています（令和3年度現在）。区内在住・在学の外国人が住みやすく、暮らしを楽しむことができ、さらに活躍できる活力のあるまちを目指すためには、日本の文化や風習の理解を促すとともに、日々の暮らしに必要な言語の支援も必要です。

本区から発信する情報や行政サービスにおける各種手続きなどの場面において、多言語化及びやさしい日本語の活用による支援を継続かつ充実します。

また、区内在住・在学外国人がまちへの愛着を持っていきいきと本区で暮らせるように、区民や区外から訪れる人々との交流の場や自身の経験を活かせる場についての情報を提供します。

指標	現状値	目標値
外国人における文京区への愛着度	—	検討中

ア 多言語及びやさしい日本語を活用した情報発信の充実

区の国籍別人口の内訳をみると、中国人が最も多く、次いで韓国人となっており、英語圏の外国人も一定数在住しています。そのため、すでに区のホームページや紹介映像、配布物などの多言語化を進めており、中国語、韓国・朝鮮語（ハングル）、英語などに対応しつつあります。

区内在住・在学の外国人が言語の壁により日常生活が制限され、取り残されることなく、安心して暮らせるように、区が発信する情報について、引き続きやさしい日本語の活用も含めた多言語化の充実を図ります。

主な取組

■外国人が暮らし続けるために必要な多言語対応の継続・充実

区内在住・在学の外国人が暮らしやすいように、本区が発信するホームページや動画、配布物などの多言語化及びやさしい日本語の活用を継続・充実します。

■外国人の過ごしやすさに配慮した言語環境の充実

新型コロナウイルス感染症が収束し、アフターコロナの社会では訪日外国人が増えることが予想されます。区内在住・在学の外国人だけではなく訪日外国人も含めた外国人が本区で過ごしやすいように、関係各課と連携し、教育関連施設、福祉関連施設、観光施設等での多言語化をより一層充実します。

イ 外国人の活躍できる場の提供支援

区内在住・在学の外国人が自身の能力を最大限発揮し、地域でいきいきと活躍できる場の創出を図り、身近な区民との交流をさらに促進します。

主な取組

■地域の活動に外国人が参画するきっかけづくり

本区の地域活動団体と連携し、地域の課題解決をともに図るために、外国人の知識や経験を活かせる場づくりや外国人が参画できるきっかけづくりを行います。

■外国人とともに創る異文化交流の機会の創出

従来行われてきた異文化交流の機会を基盤として、その機会の企画・立案・運営の段階で外国人の参画を促すとともに国際理解をより一層効果的に深めることができる異文化交流の機会をつくります。

第3章 計画の推進体制と評価の考え方

1. 計画の推進体制

本計画は、区と区民等がともに「連携・協働」に基づき推進するためにも、庁内のみならず、区民等からなる体制による事業評価が求められます。

そこで、前計画にひきつづき、各種事業に取り組む庁内組織である「文京アカデミー推進本部」と、計画における事業の実施状況の点検及び評価を行う区民参画組織「文京区アカデミー推進協議会」からなる推進体制をとります。

「文京アカデミー推進本部」では、アカデミー推進部を中心として関連する各部署との連携・協力を充実させ、本計画に定めた各種活動の活性化のための施策・事業を総合的に推進していきます。

2. 評価の考え方と PDCA サイクル

本計画の5つの分野の施策と各分野で共通の考え方や方向性をもって取り組む横断的施策を着実に実行するために、PDCA サイクルに沿って事業の実施状況を定期的に点検・評価し、継続的に改善を図っていきます。

PDCA サイクルとは、事業活動における Plan（計画）、Do（実施・実行）、Check（点検・評価）、Action（処置・改善）の4段階を繰り返すことで業務を継続的に改善していく手法です。本計画において示された内容に照らして、毎年度事業を企画し（Plan）、庁内関係各所はもとより、区民や関係団体等と協働し、計画ならびに事業を推進します（Do）。毎年、前年度に実施した計画の進捗と事業の実施状況について、点検・評価を行います（Check）。その評価を通じて、過年度の事業をふり返り、必要な見直しあるいは拡充を行うことで、次年度の事業の充実・発展につなげます（Action）。

このようなPDCA サイクルに沿った事業の定期的な点検・評価を行うことで、毎年、よりよい事業の企画・実施につなげ、各分野における分野別目標、そして本計画の4つの共通目標、さらには基本理念である「区内まるごとキャンパスに ー 多様性を活かし、人とのつながりと心の豊かさを育みながら、新たな価値が生まれる「文の京」を創りますー」の実現を目指します。

※章扉を奇数ページから始めるための調整ページ

第4章 分野別アカデミー推進事業一覧

1. 学習活動

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

2. スポーツ

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

3. 文化芸術

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

4. 観光

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

5. 国内・国際交流

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

資料編

1. 文京区アカデミー推進計画 検討経過

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

(1) ××××○××××○

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

①××××○××××○

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

2. 文京区アカデミー推進協議会名簿

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

(1) ××××○××××○

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

①××××○××××○

××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○
××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○×
×××○××××○××××○××××○××××○××××○××××○××××●

印刷物番号



文京区アカデミー推進計画

令和3年3月

発行：文京区アカデミー推進部アカデミー推進課

住所 文京区春日一丁目16番21号

電話 03-5803-1307（直通）

FAX 03-5803-1369